

令和6年度「生涯現役地域づくり環境整備事業」情報交換会

生涯現役地域づくり環境整備事業の意義と期待
～日本の未来に必要な最重要事業～

Gerontology
Gerontology

2024年11月20日

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室 上席研究員 前田展弘

（ 東京大学高齢社会総合研究機構／未来ビジョン研究センター 客員研究員

慶応義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター 訪問研究員

自己紹介

1971年生。1994年3月、早稲田大学商学部卒業（2007年3月、日本大学大学院グローバルビジネス研究科修了：MBA）

2004年～ **(株)ニッセイ基礎研究所**

2009年度～ 東京大学高齢社会総合研究機構（Institute of Gerontology）客員研究員

2022年度～ 東京大学未来ビジョン研究センター 客員研究員

2021年度～ 慶応義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター 訪問研究員

2023年度 早稲田大学Life Redesign College（人生100年時代の大学）講師

<その他社外委員等>

- ✓ 内閣官房「一億総活躍社会／意見交換会」招聘（2015年度）
- ✓ 厚生労働省「生涯現役地域づくり普及促進事業／有識者委員会」委員（2024年度）
- ✓ 財務省財務総合政策研究所「高齢社会における選択と集中に関する研究会」委員（2013年度）
- ✓ 東京都庁「東京のグランドデザイン検討委員会」招聘（2015年度）
- ✓ 神奈川県庁「かながわ人生100歳時代ネットワーク」WG座長（2017-19年度）
- ✓ 生協総研「2050研究会（2050年未来社会構想）」委員（2013-14、16-18年度）
- ✓ 全労済協会「2025年の生活保障と日本社会の構想研究会」委員（2014-15年度）
- ✓ 一般社団法人 定年後研究所 理事（2018-19年度）
- ✓ 一般社団法人 未来社会共創センター 理事（2020年度～） 等

<研究・専門分野>

ジェロントロジー、超高齢社会・市場、高齢者就労・生涯現役、長寿時代のライフデザイン、高年齢期のQOL／well-being

<著書>

- 『2050年新しい地域社会をつくる』（分担執筆）、東信堂、2018年10月
- 『東大がつくった高齢社会の教科書』（分担執筆）、東京大学出版会、2017年3月
- 『2025年の日本～破綻か復活か』（分担執筆）、勁草書房、2016年9月
- 『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』（分担執筆）、岩波書店、2015年8月
- 『持続可能な高齢社会を考える』（分担執筆）、中央経済社、2014年11月 等



■ ジェロントロジーとは・・・①定義

Gerontology

Geront (ギリシャ語の老齢、高齢者) + ology (学)

「老年学」「加齢学」「高齢社会総合研究学」

「長寿学」「高齢学」「熟年学」「創齢学」「人間年輪学」「長寿社会の人間学」

「人生の未来学」「生きがいの科学」「人生を豊かにする幸せの学問」

「安心で活力ある長寿社会を実現する学際科学」・・・

Gerontology : “AGING (加齢・高齢化)”が研究テーマ

加齢に伴う心身の変化を研究し、**高齢社会における**

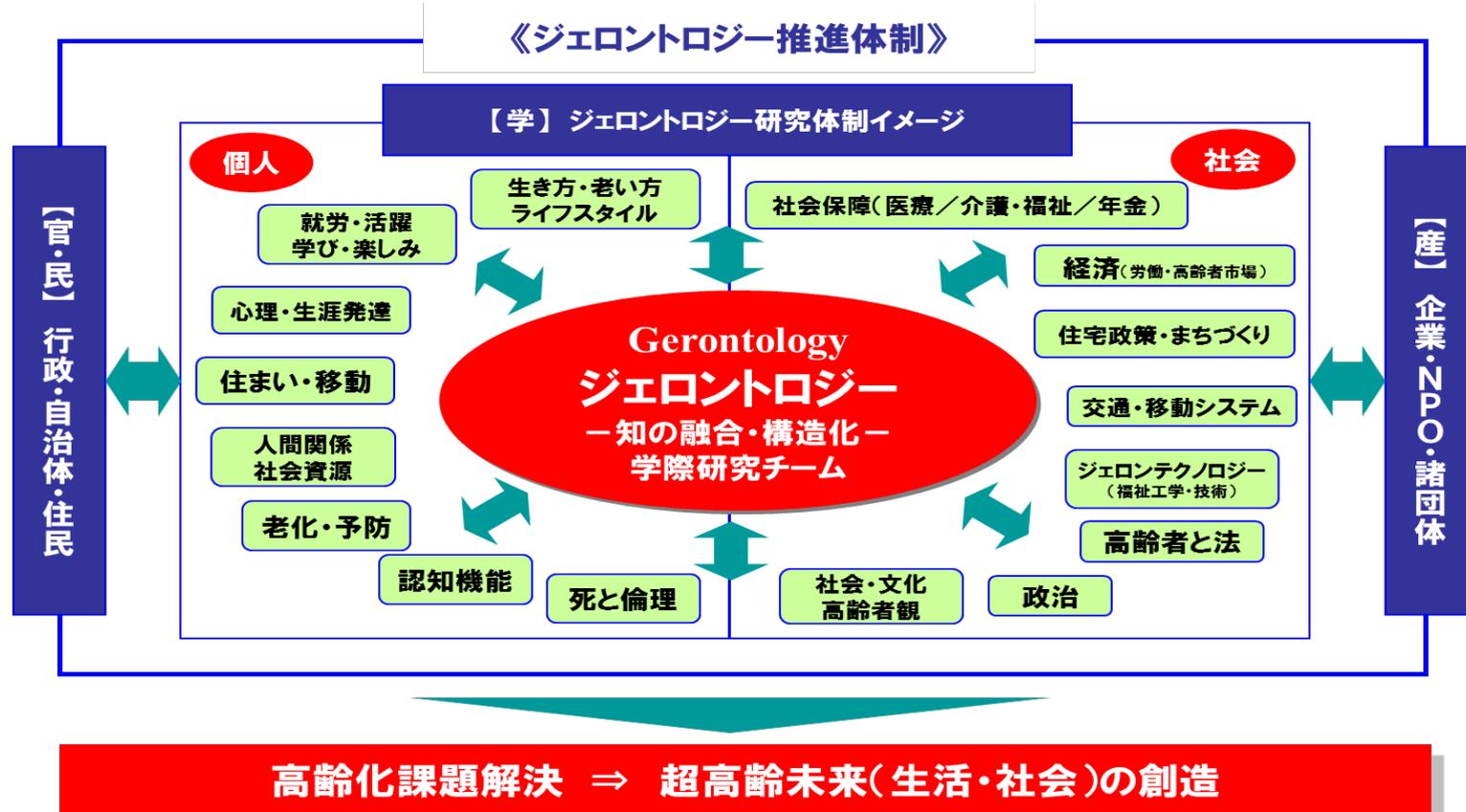
個人と社会の様々な課題を解決することが目的

～AGINGを科学する学際的学問 = ジェロントロジー (総合知) ～

■ ジェロントロジーとは・・・②特徴

産官学民で協働・共創する！

■ ジェロントロジーの特徴：「学際的」「実学的」→「総合知」の創出



ジェロントロジーは未来を創る！次代の高齢者（若者）の未来に貢献！

■ ジェロントロジーとは・・・②特徴 ... 「加齢」をポジティブに捉えている!

<年齢とは?>

暦年齢 (Chronological age) : 出生からの経過年数

機能年齢 (functional age) : 個人の機能のレベルから年齢を捉えるもの。個人個人で大きく異なる。

主観的年齢 (subjective age) : 自分が感じる主観的年齢。高齢になるほど暦年齢との差が拡大する (若く評価する傾向がある)。

⇒ 暦年齢だけで一律に規制することの限界を共有しつつ、高齢者観を個人も社会も見直す必要がある

<エイジズム (ageism) >

バトラー氏 (Butler, R.N ; アメリカ国立老化研究所所長) が提唱 (1969年)。

「年齢に対する偏見・差別。高齢であることを理由に人々を系統的にステレオタイプ化して差別するプロセス」

社会の3大差別 : 「人種差別」「性差別」「年齢差別 (エイジズム)」

⇒ ジェロントロジーはエイジズムを社会からなくす、払拭するための学問!

<参考> ジェロントロジーの教育・研究を行っている主な大学・研究機関等

大学

- **東京大学高齢社会総合研究機構** (IOG; Institute of Gerontology) (2006～寄付研究部門設置⇒2009～現在のIOGへ)
- **桜美林大学** (2002～老年学専攻設置、2008～博士課程設置)
- 慶應義塾大学ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センター (2016～) ※金融ジェロントロジー
- 京都府立医科大学「金融機関高齢顧客対応WG」(2019～) ※金融ジェロントロジー関連
- 早稲田大学Life Redesign College (2022～) ※ジェロントロジー講座あり 他



研究機関

- 国立研究開発法人 **国立長寿医療研究センター** (2004～)
- 地方独立行政法人 **東京都健康長寿医療センター** (東京都老人総合研究所 1972～)
- **(株)ニッセイ基礎研究所** (2001～) 他

学会

- **日本老年学会** (1959～) ※下記7学会から構成される総体
日本老年医学会 (1959～)、日本老年社会科学会 (1959～)、日本基礎老化学会 (1981～)、日本老年歯科医学会 (1990～)、日本老年精神医学会 (1986～)、日本ケアマネジメント学会 (2001～)、日本老年看護学会 (1995～) ※学会HP掲載順に記載

I. 生涯現役社会の必要性

- ① 超高齢未来の課題（個人・社会・地域）**
- ② 高齢期に活躍することの効果**

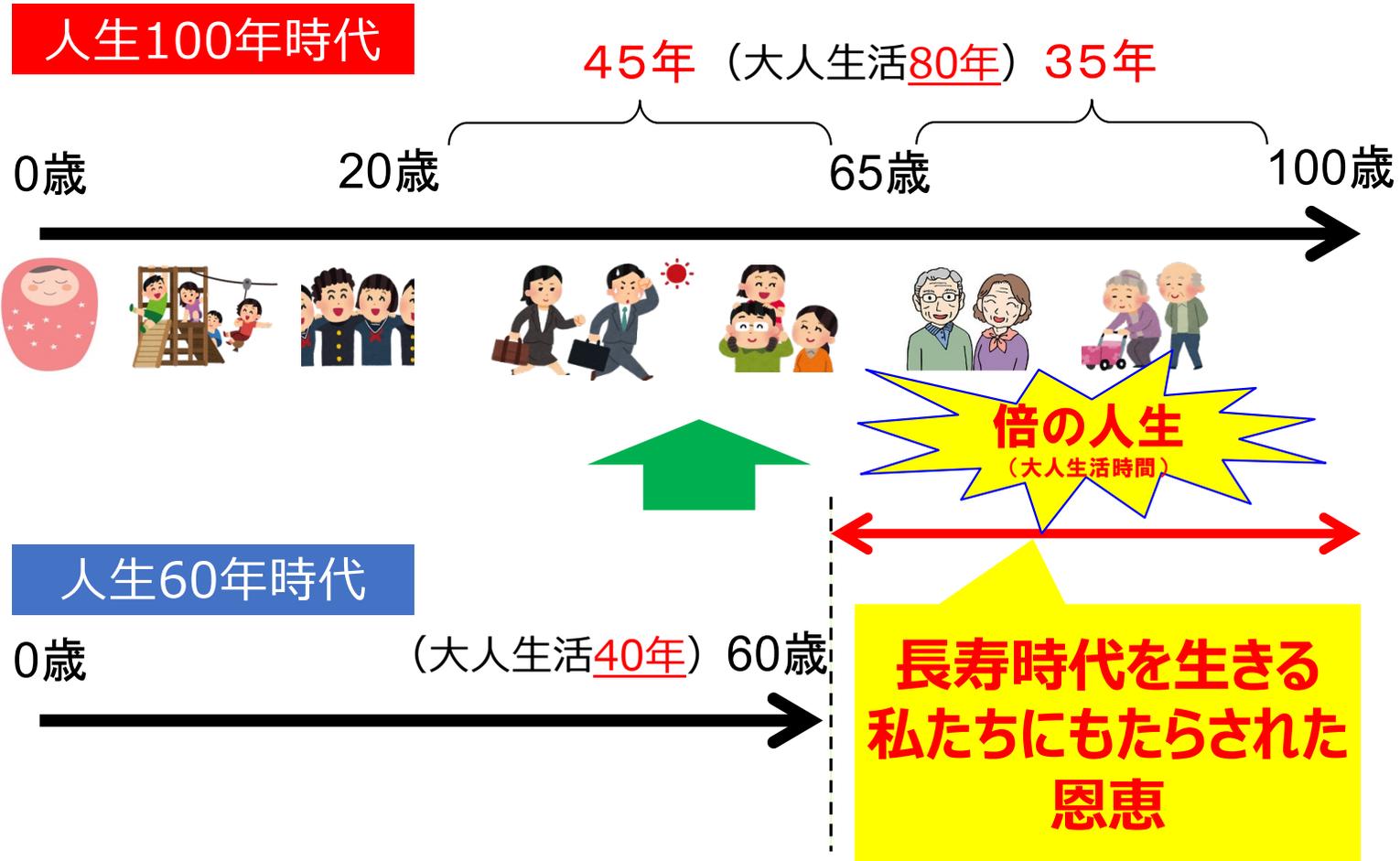
II. 本事業の意義と期待

- ① 現状の考察・問題点**
- ② 理想の事業展開・プラットフォーム機能（私案）**

III. まとめ

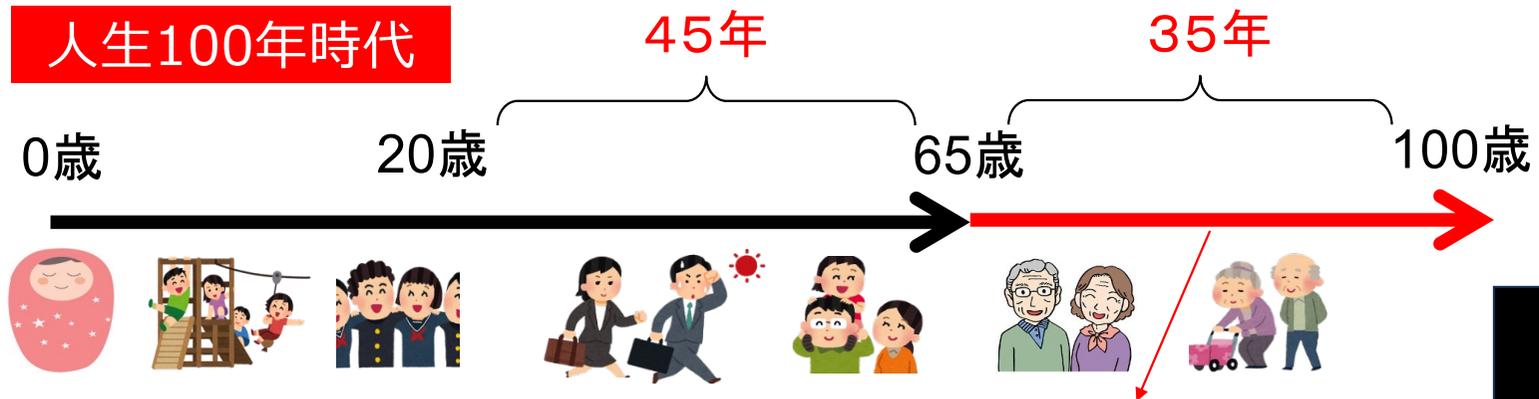
～人生100年時代、高まる将来不安～

個人



～人生100年時代、高まる将来不安～

個人



延長した人生（高齢期）…希望 < 不安

…人生100年をどう生きていけるか？特に延長された高齢期の生活を？

どういった老後を過ごせるか

リタイアしたら何をしよう？

全く想像できない

家計も厳しく蓄えもない

親のこと心配

長生きしていいことあるかな？

毎日、日曜日も辛いな、

お金が持たない認知症になったらどうしよう…

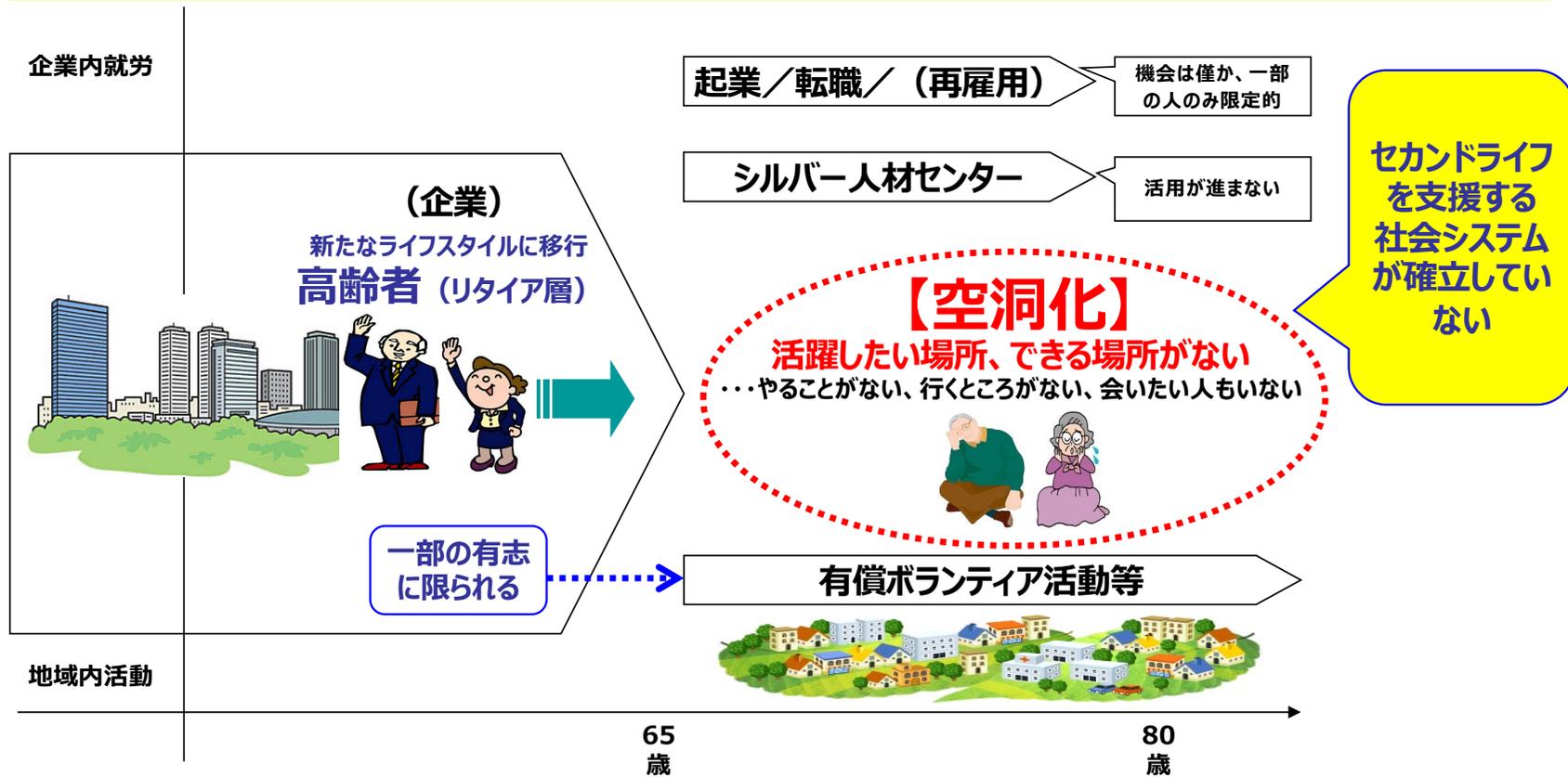
独りになったら、人に迷惑かけたくないし

歩けなくなったらどうしよう、

【課題】「セカンドライフの空洞化問題」

個人

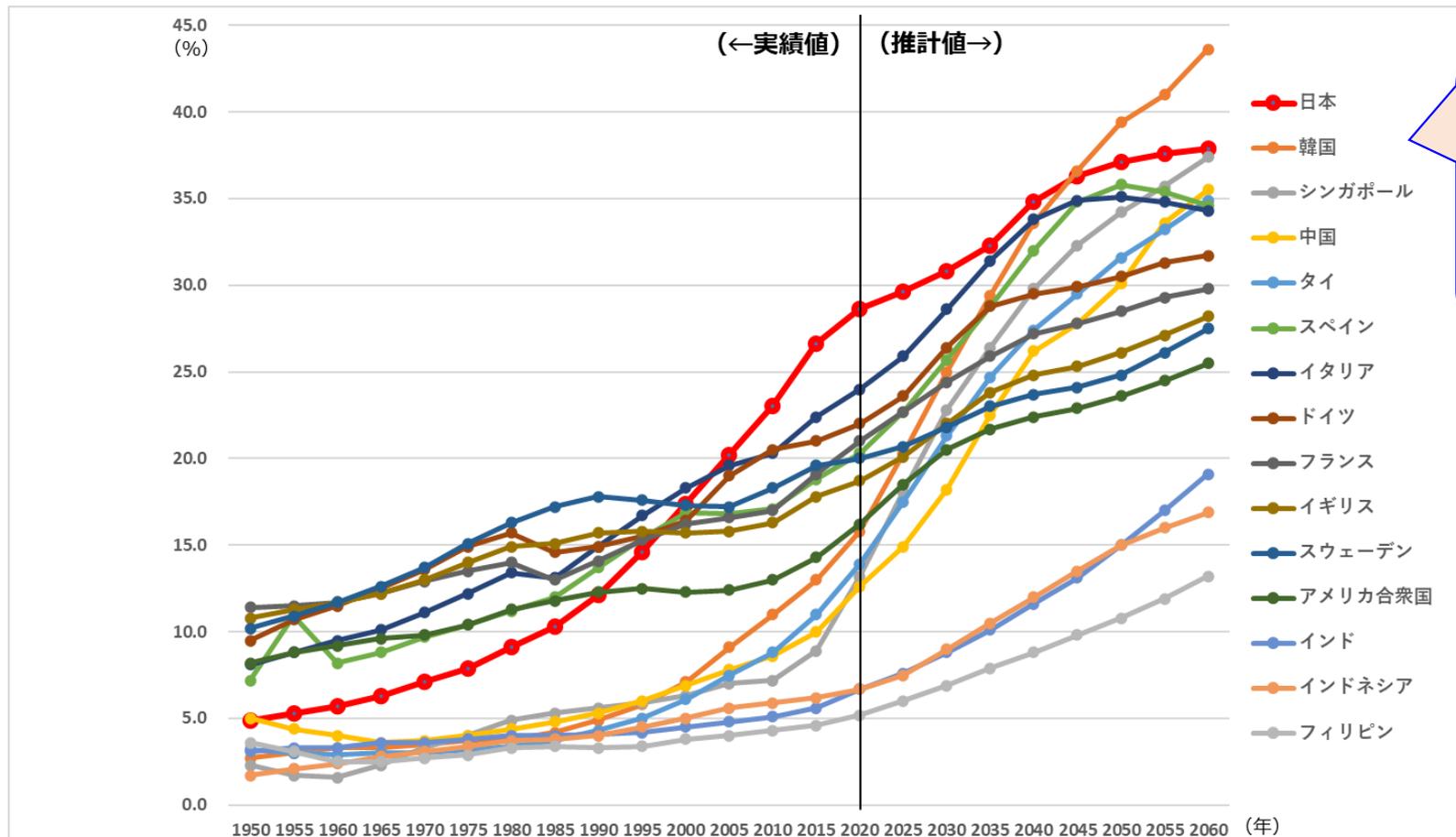
現役をリタイアした高齢者の多くが新たな活躍場所を見出せずにいる
「ない・ない」づくしで、自宅に閉じこもる ⇒ 個人も社会も極めて不健康



～地球丸ごと高齢化・・・「高齢化最先進国」の日本！～

日本は世界に先例のない**高齢化最先進国・フロントランナー**(=超高齢社会のモデル)

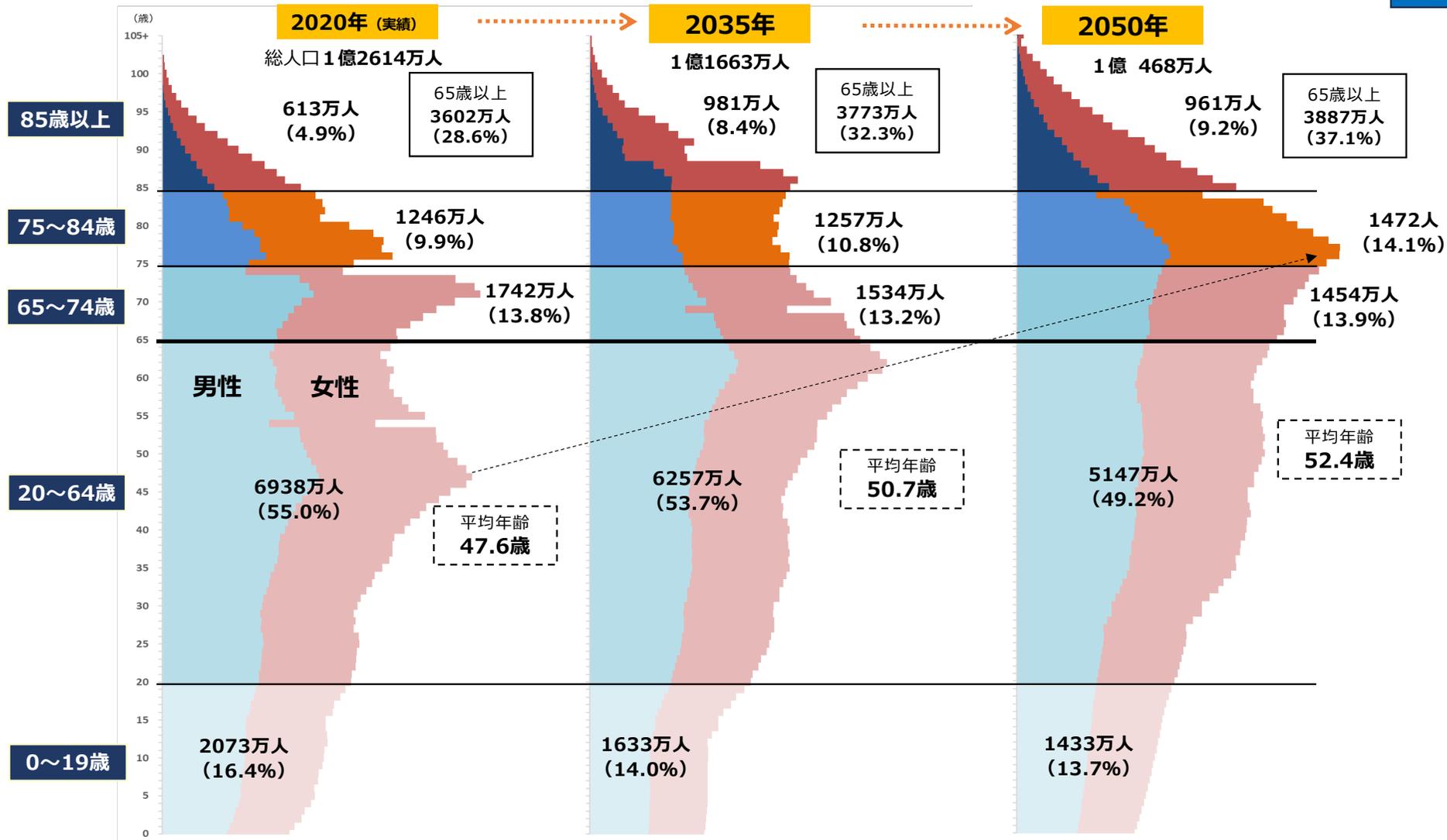
<世界各国の高齢化率の推移と推計>



超高齢国家として
世界が今後の日本の
動向に注目
アジア各国が急速に
高齢化
(韓国・シンガポール等)

(資料) UN, World Population Prospects: The 2022 Revision。ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2022年推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果。

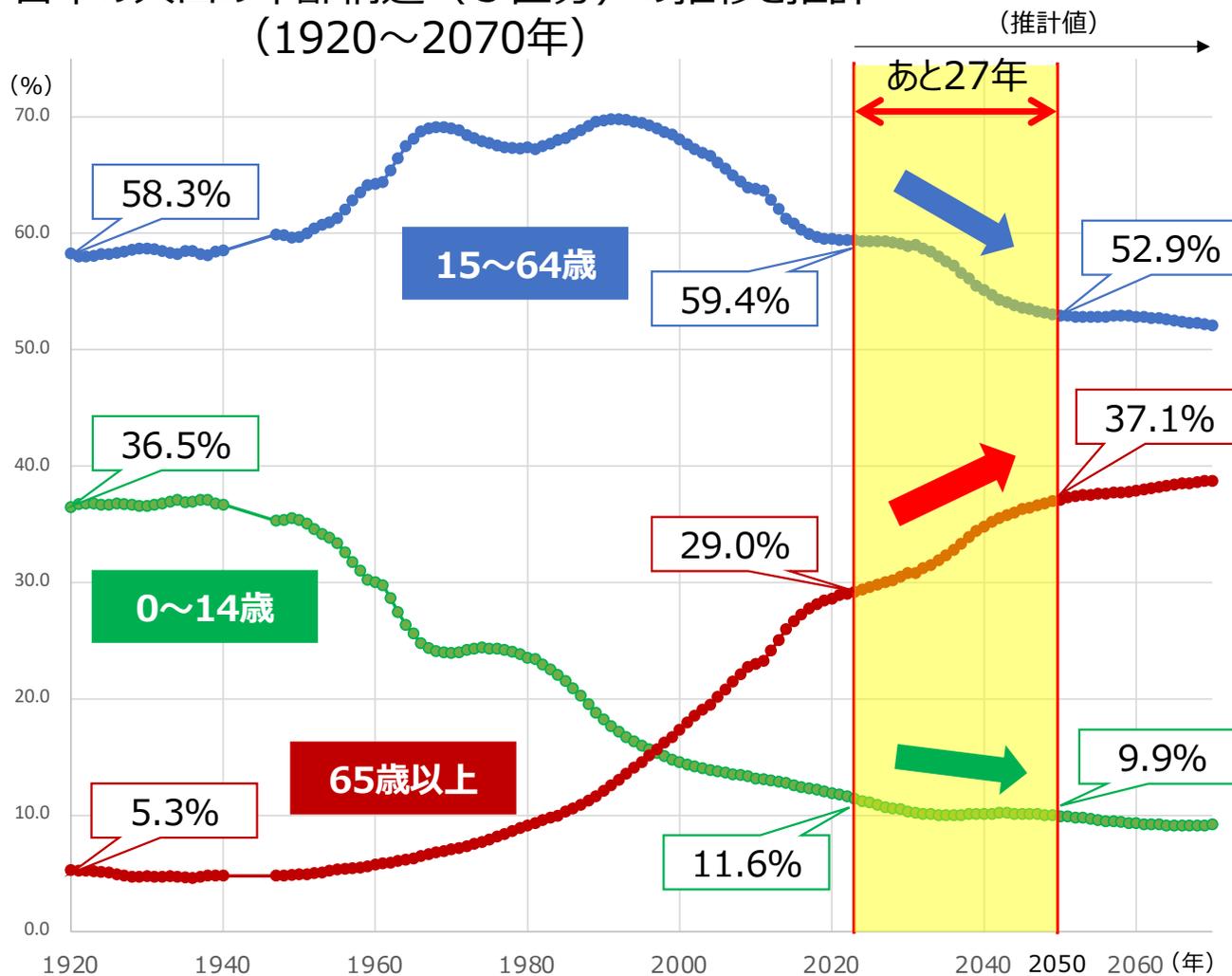
～本格的な超高齢社会の到来（日本の将来人口構造：2020～50年）～



資料：総務省統計局「国勢調査（2020年）」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2023年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果より作成

～超高齢未来に向けた変化の過渡期（現在）～

◆日本の人口の年齢構造（3区分）の推移と推計
（1920～2070年）



超高齢未来の
社会・人口構造

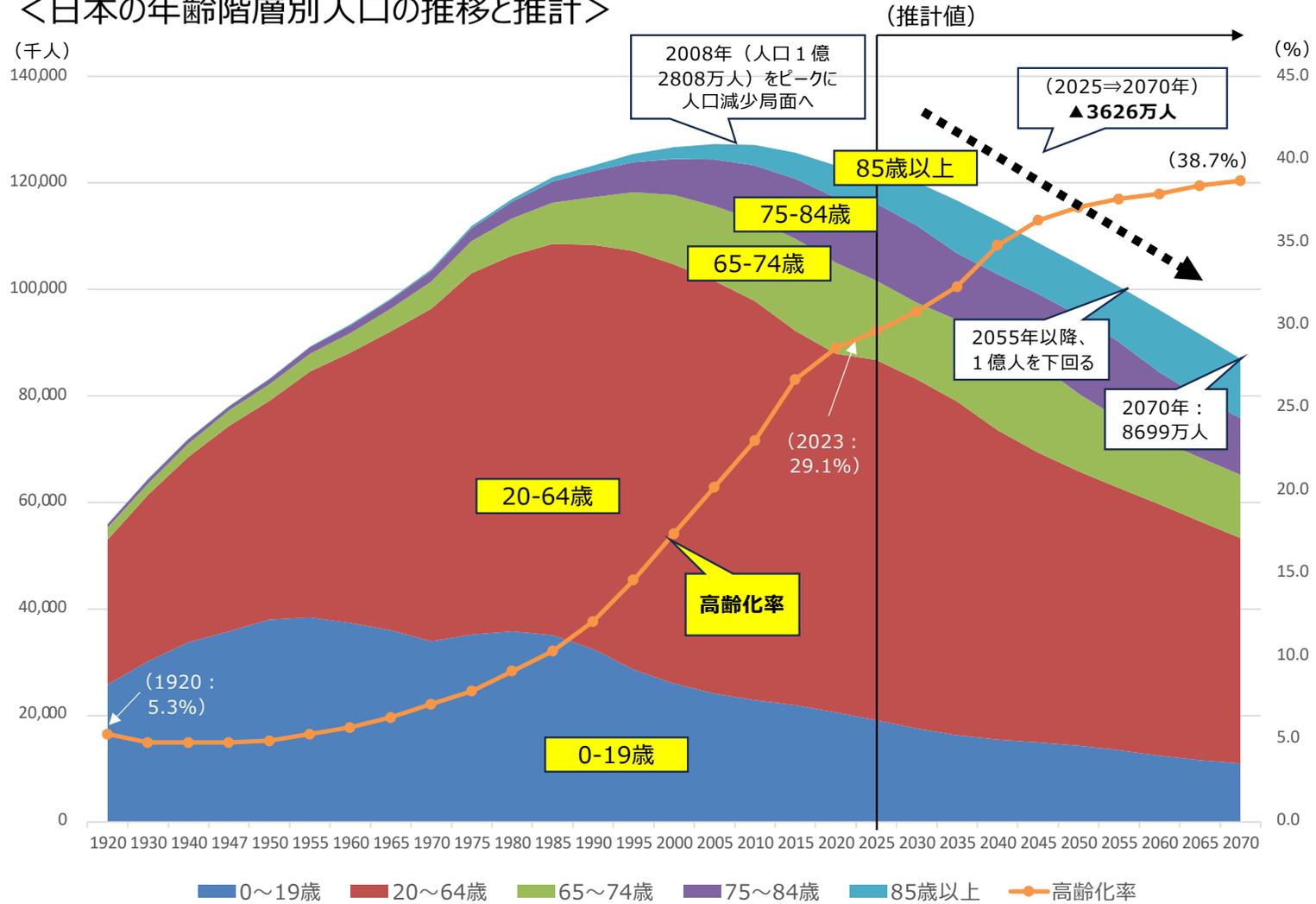
高齢者【4割】
現役【5割】
子ども【1割】

社会・市場の
創り直しが必要！

資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2023年改訂版）」及び「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果より作成

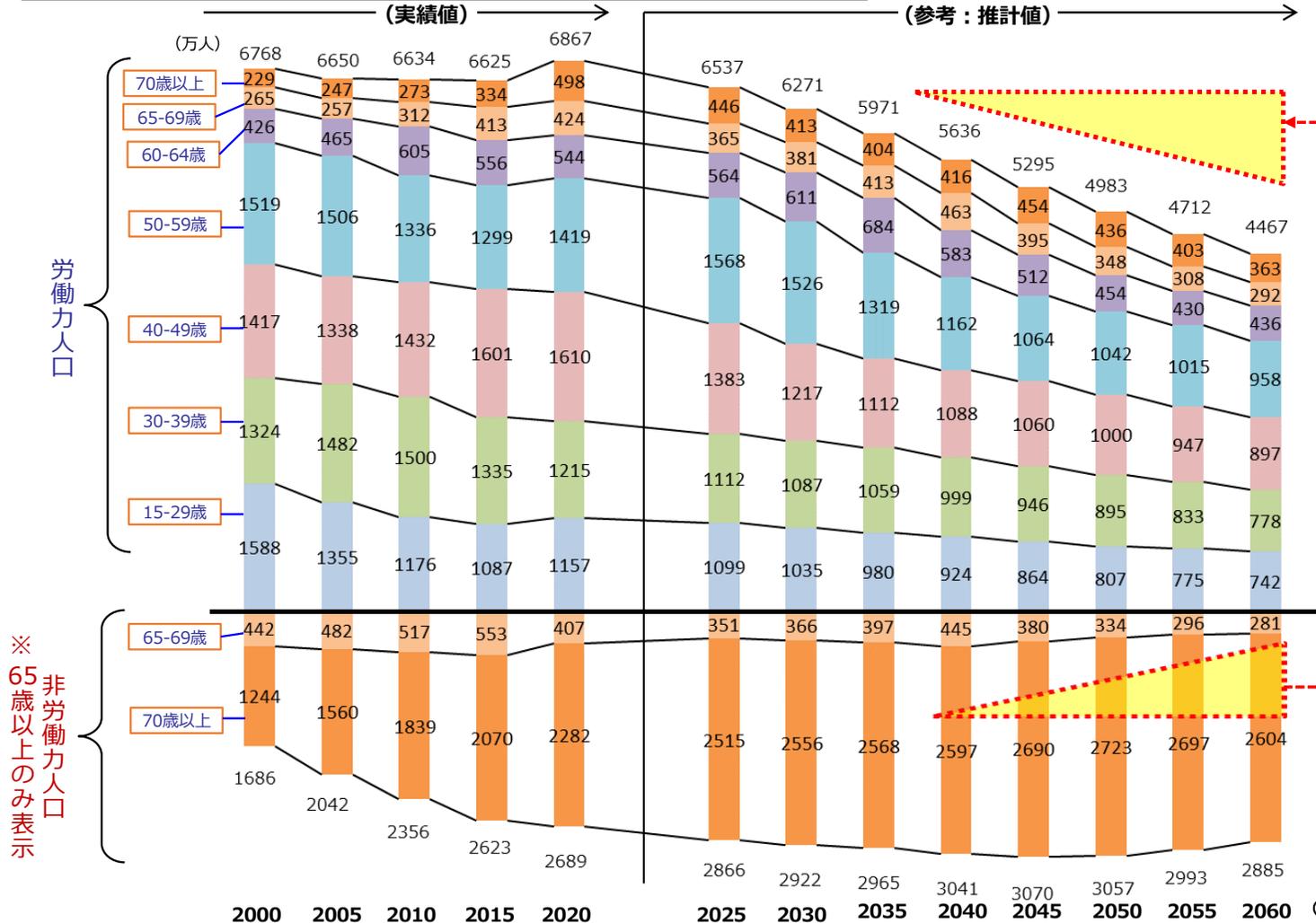
～少子高齢化・人口減少が進む未来～

＜日本の年齢階層別人口の推移と推計＞



資料：総務省統計局「国勢調査報告」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（令和5年推計）、出生中位・死亡中位推計値による。1947～70年は沖縄県を含まない。総数は年齢不詳を含む。

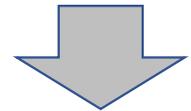
■ 課題「労働力（社会活力）の減退」 <年齢段階別労働力人口の推移と推計（2000～2060年）>



社会

**50歳以上労働力は
1/2 (50%)
(50-64歳は1/3)**

**社会
課題**



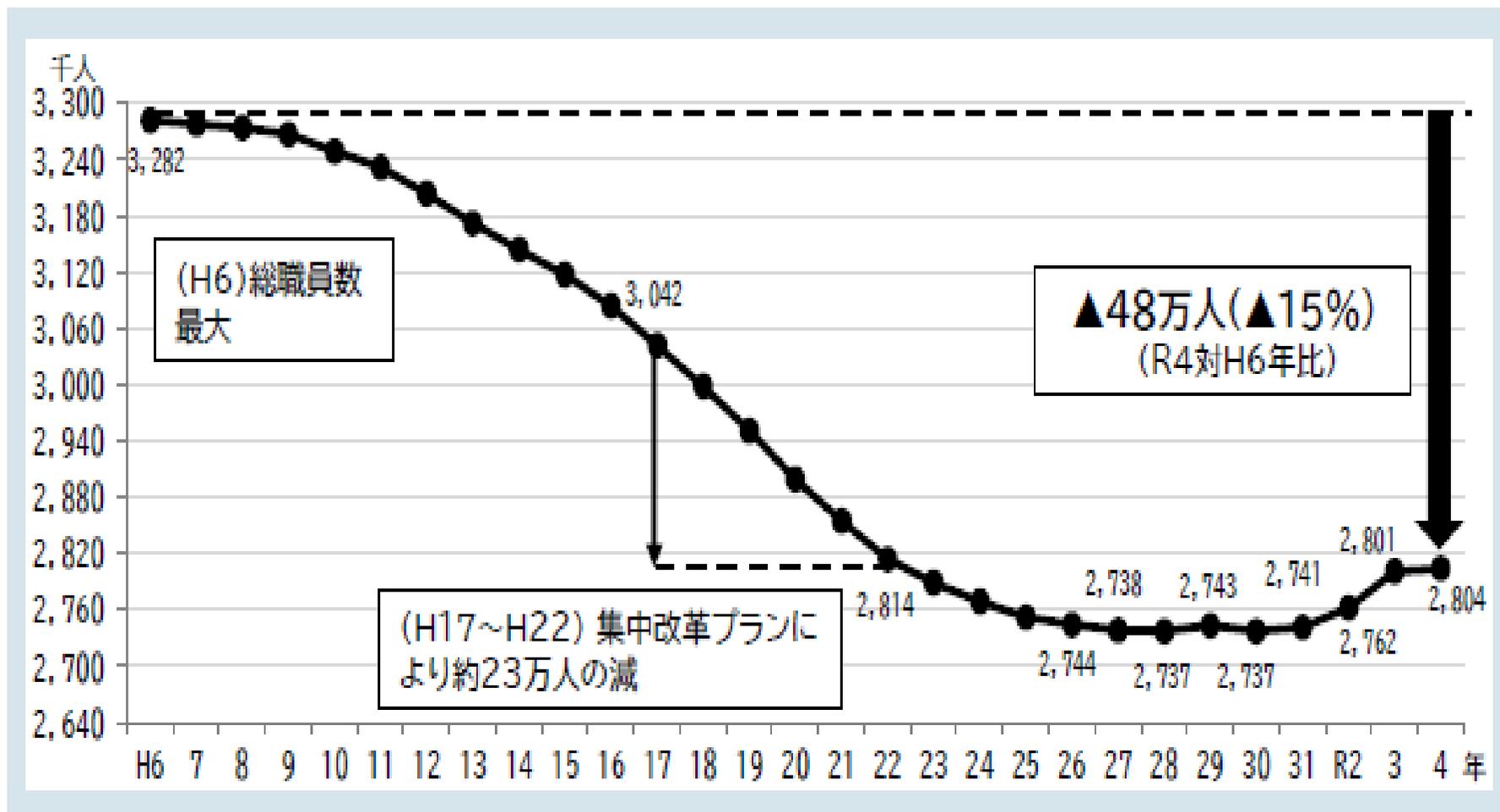
**シニア（社員）を
どう活かすか、活かせるか
は、社会（企業）の
発展に大きく影響する！**

※ 65歳以上のみ表示

※2000～20年は総務省統計局「労働力調査」。2025～60年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計人口をもとに、15～69歳までの労働力人口は2020年時点の労働人口比を乗じて算出。70歳以上の労働力人口は、労働力調査の年齢段階別就業率を参考に、70～74歳は30%、75～79歳は15%、80～84歳は10%、85～89歳は5%、90～99歳は1%、100歳以上は0%と仮定して算出したもの。2025～60年の非労働力人口は、年齢段階別の推計人口から前述の推計した労働力人口を引いて算出したもの。

【課題】「地域人材」の枯渇化懸念

＜地方公共団体の総職員数の推移＞

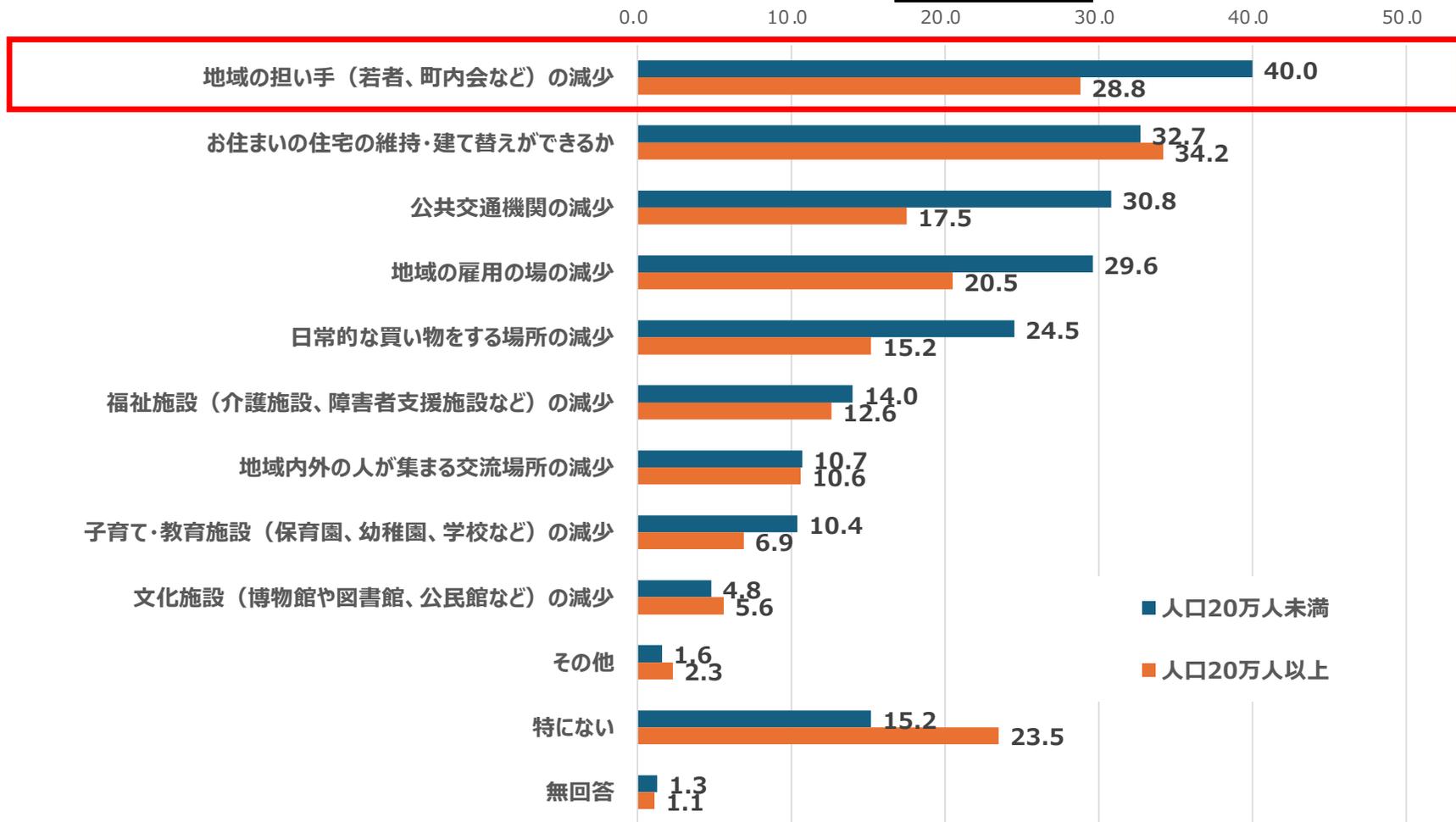


資料：厚生労働省「令和5年版厚生労働白書」より

【課題】 地域の担い手の減少

<地域における生活環境に対する不安なこと>

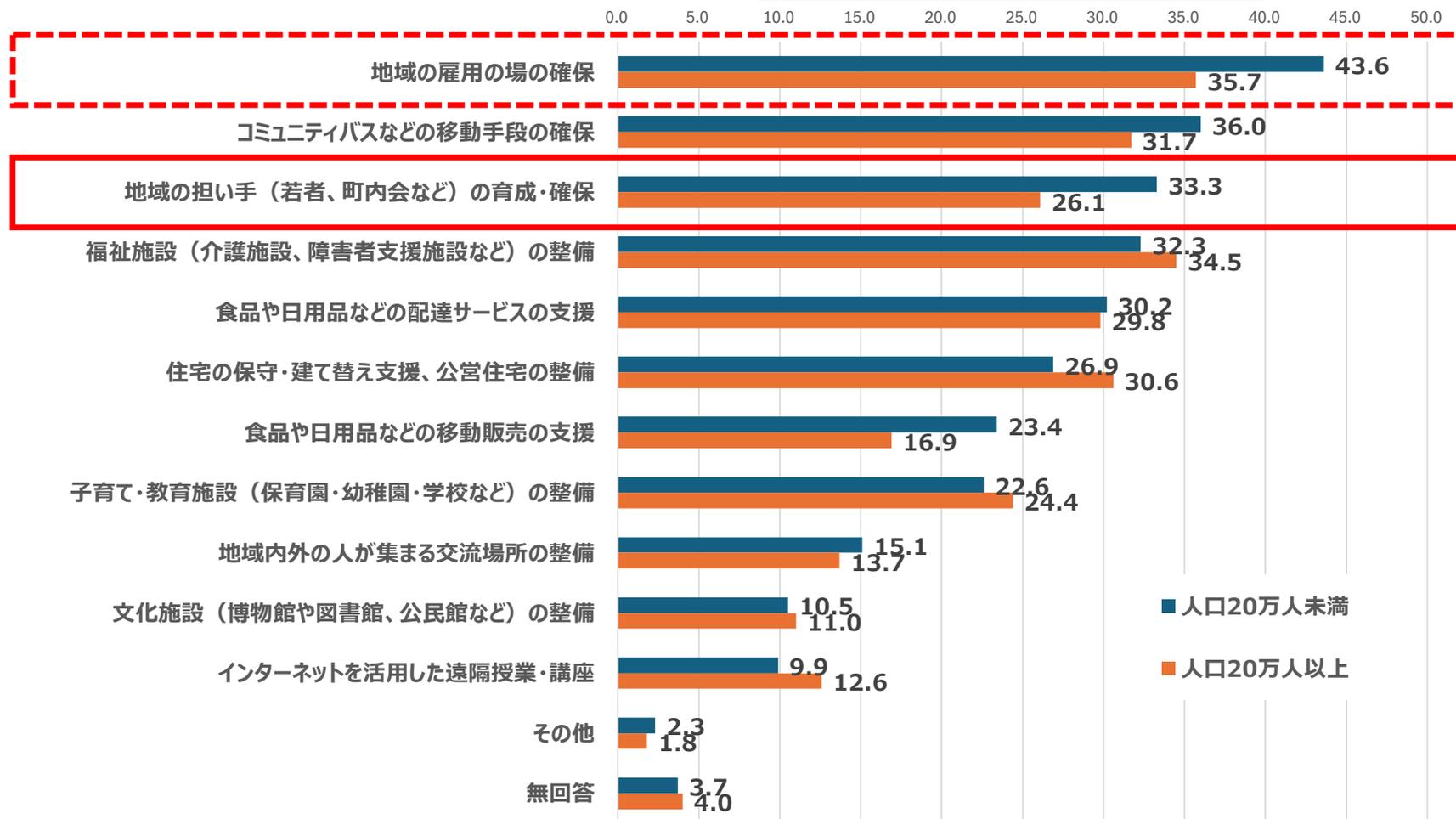
※複数回答



資料：内閣府「地域社会の暮らしに関する世論調査」（令和2（2020）年10月調査）より

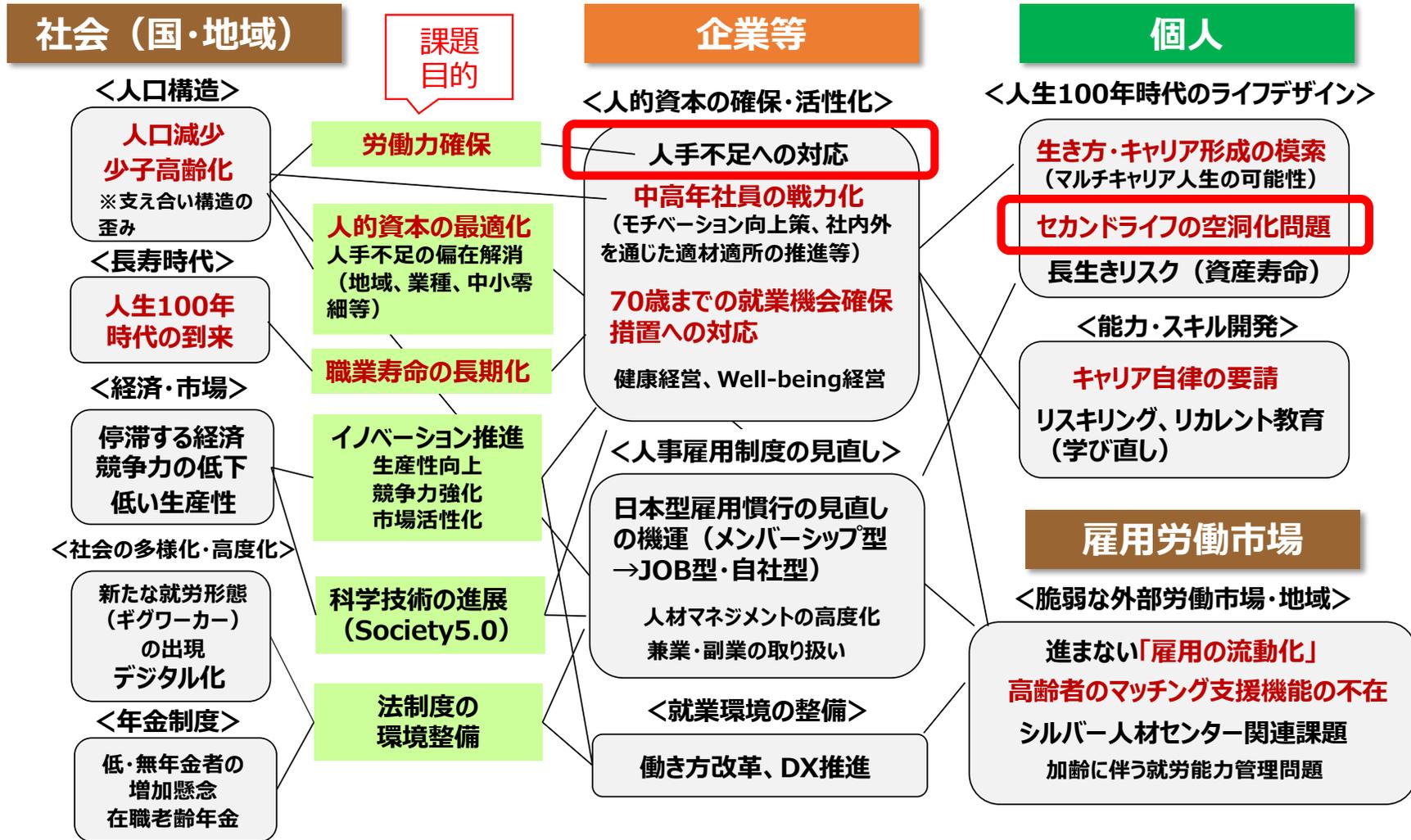
【課題】 地域の担い手の減少

＜地域における生活環境に関して行政が力を入れるべき施策＞ ※複数回答



資料：内閣府「地域社会の暮らしに関する世論調査」（令和2（2020）年10月調査）より

日本の労働市場の変化と課題



定年と職業寿命延伸に向けた動向

<定年制設置状況>

定年制の廃止 3.9%

70歳以上定年 2.3%

(66歳以上定年) 1.1%

65歳定年 23.5%

大企業16.5%
中小企業24.0%

60-64歳定年 69.2%

61-64歳定年：2.7%
60歳定年：66.4%

65歳までの
継続雇用
(希望者全員)

約93%

70歳までの就業
確保措置実施
企業割合
29.7%

65歳

70歳

70歳までの就業確保措置【努力義務】

① 定年制の廃止 3.9% (再掲)

② 70歳までの定年引上げ 2.3% (再掲)

③ 70歳までの継続雇用制度 23.5%

※グループ会社（子会社・関連会社）での継続雇用を含む
※他社への再就職斡旋等を通じた雇用の継続を含む

④ 創業支援等措置の導入 0.1%

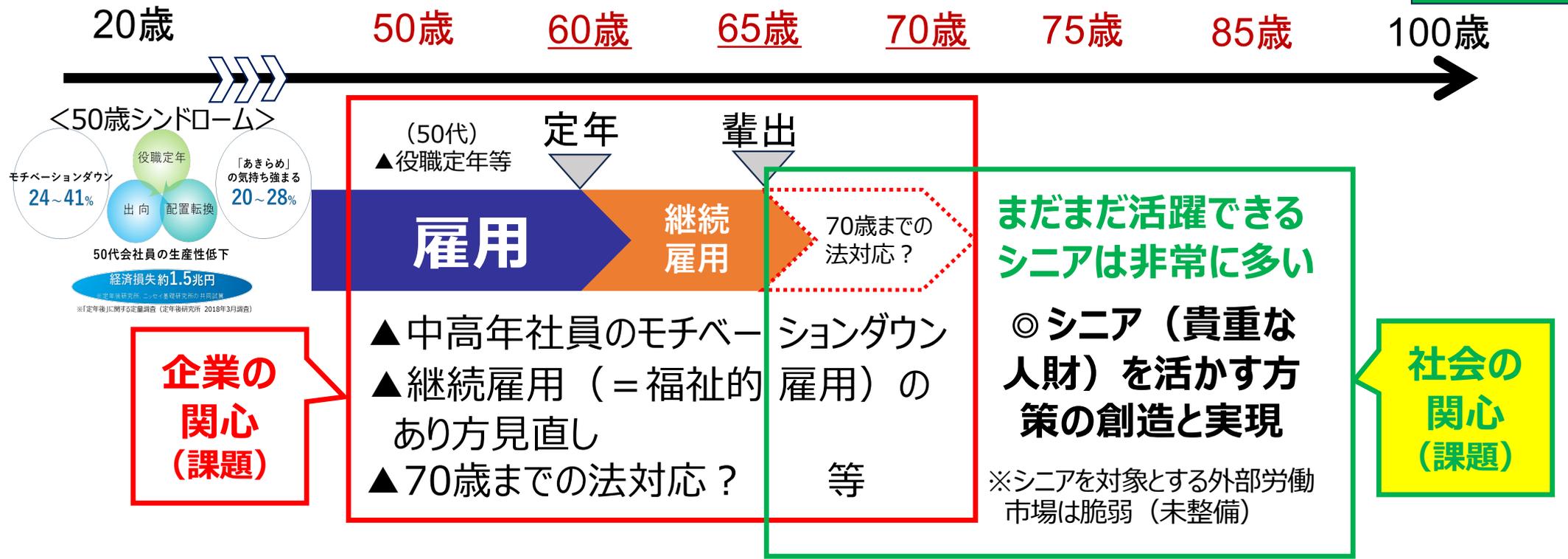
※70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入
※70歳まで継続的に社会貢献事業に従事できる制度の導入

《2021年4月施行》

資料：厚生労働省「令和5年高年齢者雇用状況等報告」より
 <調査概要> 2023年6月1日現在の状況
 237,006社から回答 [大企業（301人以上）17,019社、
 中小企業（21～300人）219,987社]

高齢者就労に関する企業と社会の関心（課題・実態）

地域



【課題】 企業と地域で人財の奪い合い（→地域人材の枯渇化懸念）

◎ 地域にとっては、「企業人材」を「地域人材」に転換し、活躍を促すことが求められる！

課題解決の最適解

生涯現役社会の実現



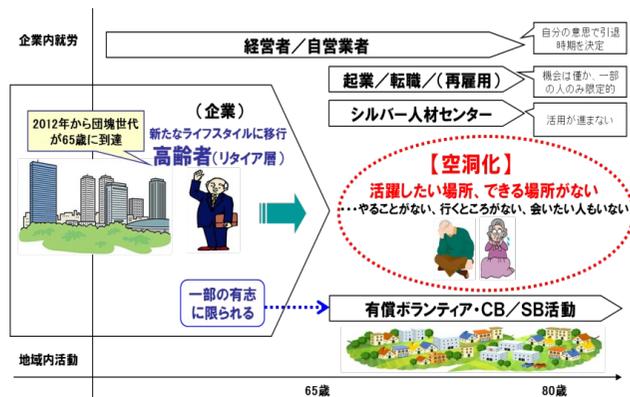
～生涯現役社会の必要性～

『超』高齢化する未来社会

～人生100年時代～

「生涯現役社会」の実現なくして、未来はない！

■ 個人のセカンドライフの空洞化問題



- ✓ 活躍できるのにできない (+ 高齢者の若返り)
- ✓ 閉じこもり、孤立死
- ✓ 貧困、下流老人
- ✓ 生きがい喪失

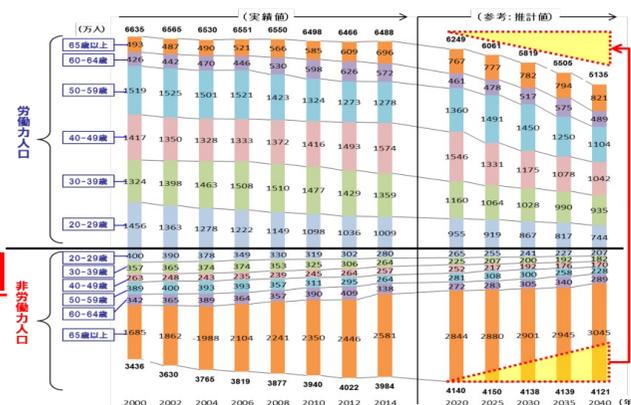


(残り15年)

2030年



■ 社会の支え合いバランスの問題



- ✓ 「肩車」はありえない
- ✓ 貴重な社会資源の喪失
- ✓ 活躍の継続こそ健康長寿の最大の予防
- ✓ 経済・地域力強化に必要

※内閣官房「一億総活躍社会の実現に関する意見交換会」(2015.11.17)にて提示したスライド

～生涯現役社会（高齢期の就労）の意義【個人】～

人生100年時代

45年

35年

0歳

20歳

65歳

100歳



延長した人生（高齢期）…**希望** < **不安**

高齢期の就労
（社会参加）
の継続

【健康】 **健康長寿**（フレイル予防・認知症予防）

に向けた**特効薬**！

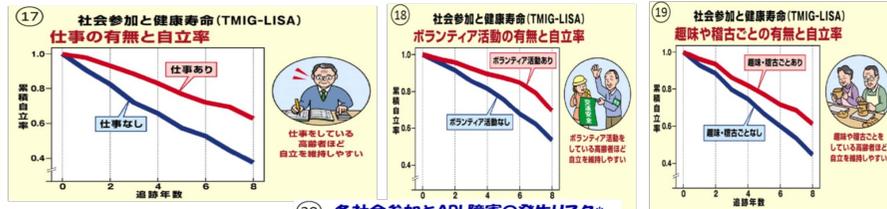
【お金】 就労の継続は**最大の生活保障**！

年金 + α （5-10万円）を如何に稼ぎ続けられるか？

【生きがい】 **社会とのつながり**、孤立予防、新たな居場所の確保、**貢献寿命の延伸** など

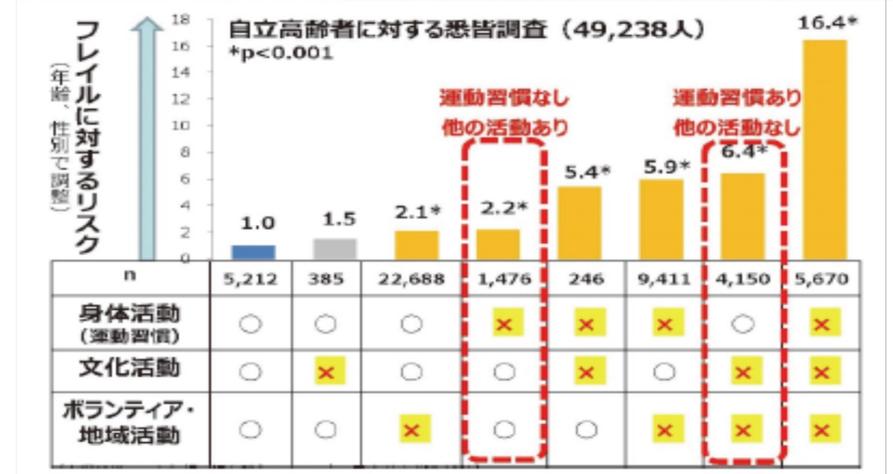
健康長寿のポイント（エビデンス）

■ **高齢期の就労は、「健康寿命（＝自立度の維持）の延伸」に寄与している**
 8年間にわたる追跡調査の結果によれば、シニアの就労者（仕事あり）は非就労者（仕事なし）に比べ自立度の低下が少ない。ADL障害発生リスクも減少。



資料：新聞二氏（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究部長（社会参加と地域保健研究チーム））提出資料
 【出典】厚生労働省「第3回 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会（資料1）」（2012年1月12日）

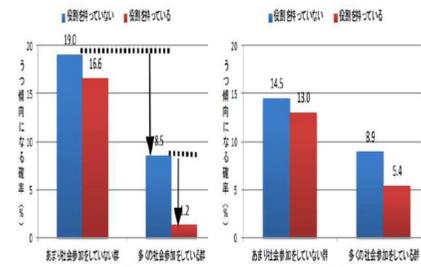
■ 「運動×社会活動×」の人よりも、「運動×社会活動○」の方がフレイルリスクが低い



資料：フレイル予防啓発に関する有識者委員会「フレイル予防のポピュレーションアプローチに関する声明と提言」（2022年12月）より引用

役割を担って社会参加している男性でうつ発症のリスクは7分の1

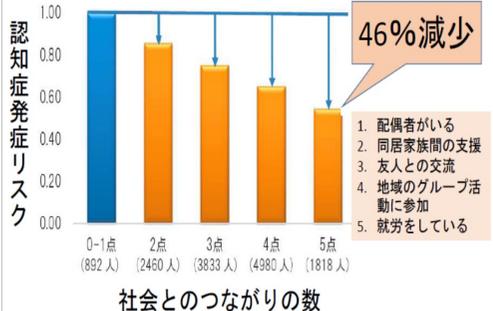
AGES 2003年調査時点ですうつ傾向が無く、2006調査にも回答した65歳以上の2728人



趣味、スポーツ、町内会、ボランティア、老人クラブ、業界、宗教、政治のグループへの参加をたずね、主成分分析で社会参加得点を算出

Takagi, D., Kondo, K., & Kawachi, I. (2013). BMC Public Health, 13: 701. doi: 10.1186/1471-2458-13-701.

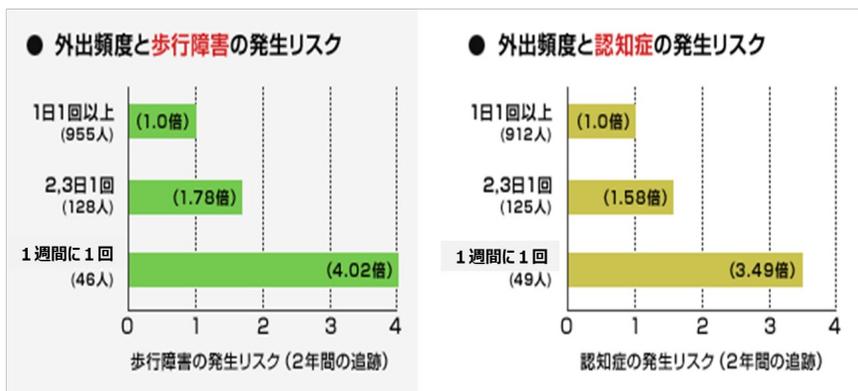
13984名を9.4年追跡 社会との多様なつながりがある人で認知症発症リスクは半減



Saito T, et al., J Epidemiol Community Health. 2018; 72(1):7-12. doi: 10.1136/jech-2017-209811

資料：近藤克則氏（国立長寿医療研究センター部長、千葉大学予防医学センター教授、JAGESプロジェクト（日本老年学的評価研究）代表）提供資料
 【出典】ニッセイ基礎研究所社内研修資料より（2019.9.12）

外出効果⇒歩行障害、認知症発症リスクで4倍の差



新潟県Y市で65歳以上の高齢者を対象に2001年から2年間追跡調査した結果

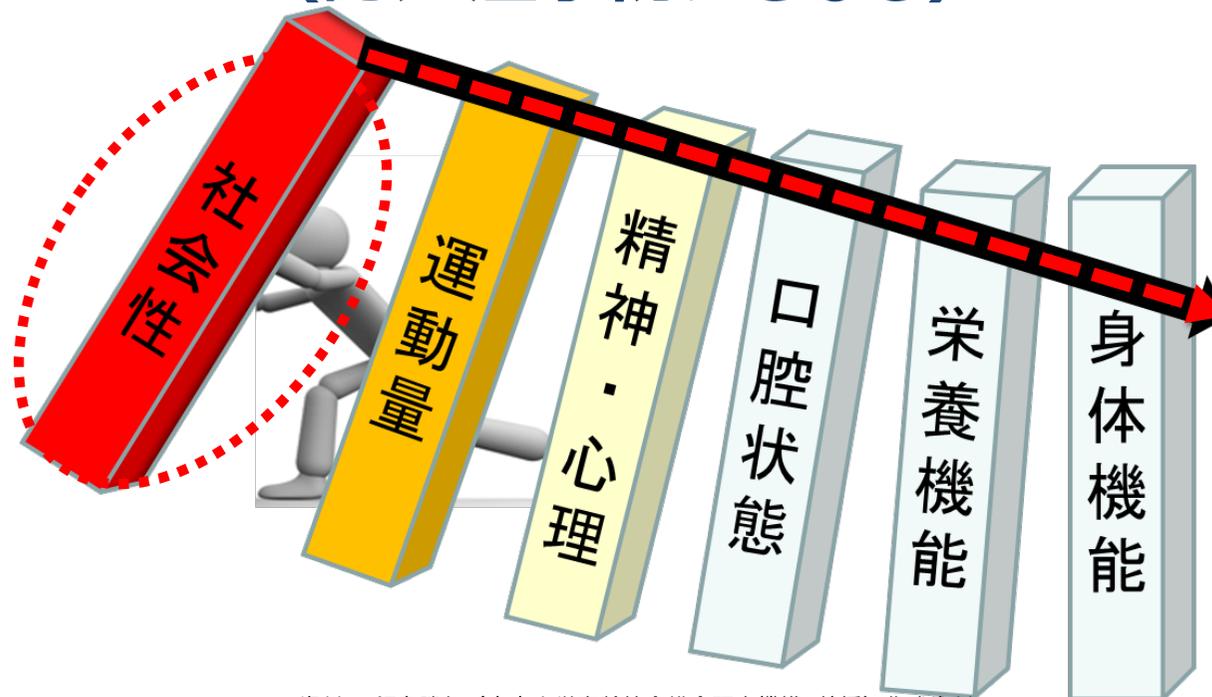
*両グラフとも、もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

（資料）財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所【第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード！】より

■ 健康長寿のポイント（エビデンス）

社会性の維持⇒フレイル・認知症予防⇒健康長寿につながる！

「社会性」の低下から始まるフレイル
高齢期における「社会性」の維持は極めて重要！
（認知症予防にもなる）



資料：飯島勝矢（東京大学高齢社会総合研究機構 教授）作成資料

研究課題⇒「長生きを喜べる長寿社会の実現」

(プロジェクト名称)

「**貢献寿命**延伸への挑戦！

～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～」

(略称) 貢献寿命&GBERプロジェクト

プロジェクト推進体制

文理融合+ビジネスノウハウを兼ね揃えた学際研究チーム



東京大学 高齢社会総合研究機構
INSTITUTE OF GERONTOLOGY, The University of Tokyo



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



リクルートマネジメントソリューションズ



ニッセイ基礎研究所

公益財団法人長寿科学振興財団が実施した長寿科学研究者支援事業「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」(令和4年度公募分)で採択されたプロジェクト。
<実施期間> 2022～2024年度 (3カ年)

新たな長寿価値「貢献寿命」

Life Expectancy
(平均寿命)



Healthy Life Expectancy
(健康寿命)



Engaged Life Expectancy
(**貢献寿命**)

【貢献寿命（定義）】
社会とつながり**役割**を
持ち、誰かの役に立つ、
感謝されるといった関わり
を持ち続けられる
人生期間

＜参考＞「貢献寿命」を支持するエビデンス

（「人とのつながり等が長寿や幸福感につながる」ことを支持するエビデンス）

① 社会とのつながりが豊かな人ほど長生きにする傾向にある

高齢者にとって、社会とのつながりを維持することが「長生き」にもつながる可能性を示した研究成果はいくつもある。例えば、社会とのつながりに焦点を当てて、65歳以上の人801人を1998年から2005年にかけて追跡調査した結果をみると、社会とのつながりを有する人ほど7年後の死亡率が低い傾向にあった。具体的には、「家族以外との会話」、「地域活動等への参加（＝活動参加）」、「仕事や家事の役割（＝役割の遂行）」、「近所付き合い」がある人とほとんどない人で比べると、ある人のほうが長生きしていた。

（出所）安梅勅江・篠原亮次・杉澤悠圭・伊藤澄雄「高齢者の社会関連性と生命予後 社会関連性指標と7年間の死亡率の関係」（平成18年9月15日『日本公衆衛生雑誌』第53巻9号）より社会とのつながりに焦点を当てて、65歳以上の人801人を7年間追跡調査した結果をみると、社会とのつながりを有する人ほど7年後の死亡率が低い傾向にあった。

② 幸せな人ほど長生きする

2011年『サイエンス』掲載の“Happy People Live Longer（幸せな人は長生きする）”では、アメリカの修道女678人を対象とした研究「ナン・スタディ」によると、ほぼ同じ環境で、同じような生活を繰り返していた修道女を対象に比較したところ、幸せを感じていた人はそうでない人よりも平均して7年長く生きることができた。

（出所）前野隆司、菅原育子著「60歳から幸せが続く人の共通点」（青春新書、2023年8月）

③ 誰かのために行動する人は、そうでない人と比べて幸福度が高く、健康長寿を実現している

誰かのために行動して喜ばれた場合、脳から「オキシトシン」というホルモンが分泌される。これが分泌されると、心身ともにリラックスして、高齢者にとって大敵であるストレスを軽減してくれる。ストレスが軽減されれば、血圧が安定し、生活習慣病の予防にもつながる。結果、長生きにつながる。

（出所）前野隆司（慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）の取材記事より（週刊現代2023年10月21・28号）

④ 幸せを規定する要素として「人との関係」が最も影響が大きい

幸せを規定する要素として「お金」「健康」「仕事」「人との関係」の4つの影響を比較検証したところ「人との関係」が最も「幸福感」にとって重要であった。お金や健康や仕事のことよりも、例えば「理想のパートナーがいる」、「いざという時に頼れる人がいる」人ほど幸福感が高い傾向にある。

（出所）大石繁宏「幸せを科学することは可能か」（岩波書店「科学」Vol.80、2010年3月）より

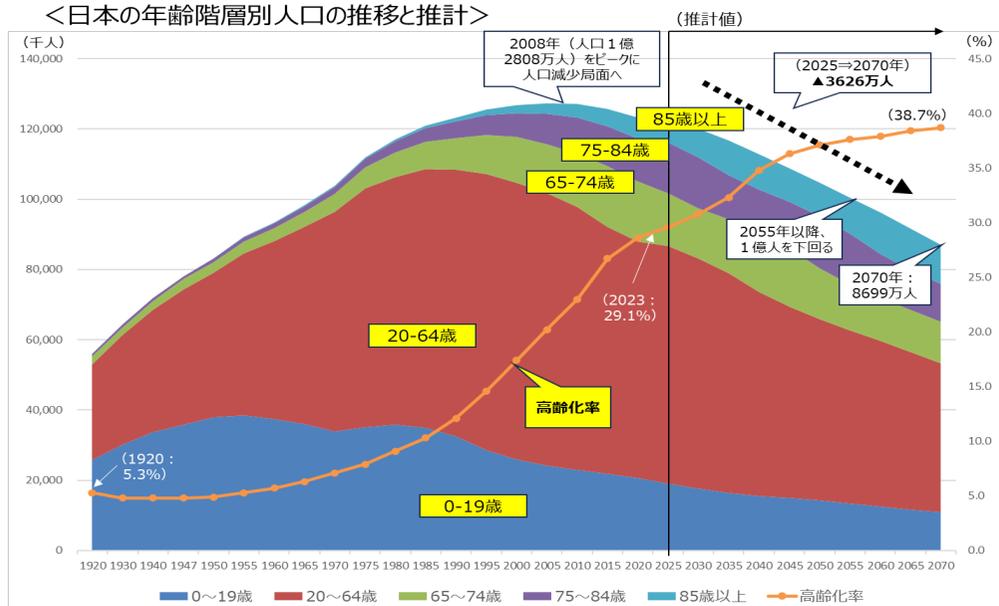
⑤ 東洋と西洋での比較研究：日本は「人との関係性」が幸福にとって重要視される

「東洋」と「西洋」の文化圏の違いにより幸福像の違いがある。日米で比較研究を行った結果、幸せに寄与する強さとして、米国は対人関係よりも「自己の充足感（したいことが叶うなど）」が重要視される一方、日本は「人との関係性」が最も重要視されている。日本人はよく他者の目を気にしがち（同時に不安になりがち）ということも外国の方から耳にすることがあるが、確かに喜怒哀楽の多くが「他者」との関係の中で起こっている人が多いのではないか。この違いの結果は、人口密度の違いであったり、他者と協調を重んじる歴史的文化的な価値観がもたらしているのかもしれない。いずれにしても、「人との関係」は特に日本において「幸せ」に大きな影響を与えたと考えられる。

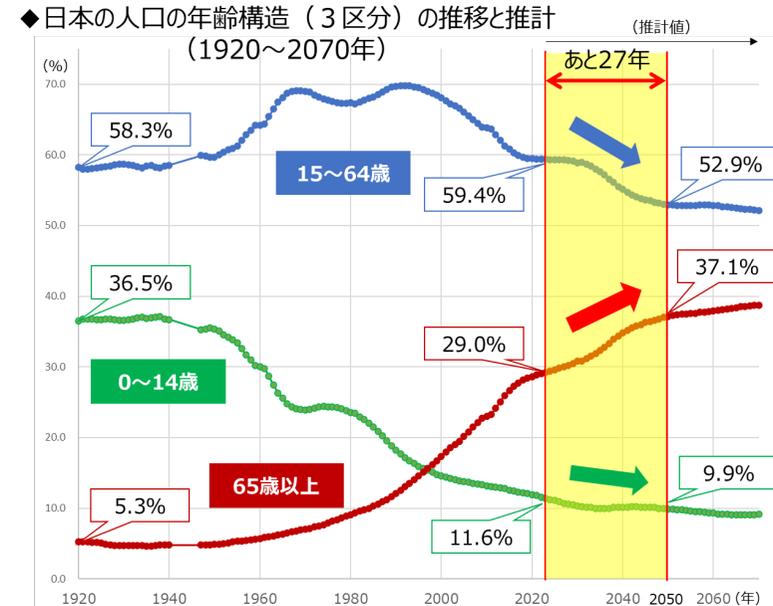
（出所）北山忍「洋の東西で幸福感にどのような違いがあるか」（岩波書店「科学」Vol.80、2010年3月）

～生涯現役社会（高齢期の就労）の意義【社会・地域】～

人口減少未来



高齢者4割社会



超高齢未来の社会・人口構造

高齢者【4割】

現役【5割】

子ども【1割】

社会・市場の創り直しが必要！

労働力減少 = 人財の奪い合いの時代

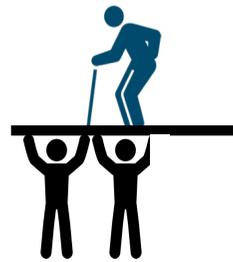
◆ **社会の支え合いのバランスの確保**

◆ **社会の活力の維持、企業・地域の持続性の確保**

⇒ **高齢者の活躍** 及び労働力の合成・増強は重要な社会課題！

75歳以上を「支えられる側」とすると

20-64歳で65歳以上を支える場合



2020年：1.93人

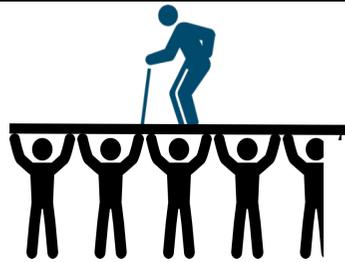


2040年：1.48人



2060年：1.30人

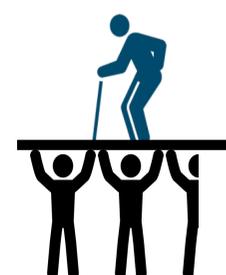
20-74歳で75歳以上を支える場合



2020年：4.67人



2040年：3.37人



2060年：2.43人

資料：2020年は総務省統計局「国勢調査」、2040年・2060年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果より算出

～生涯現役社会の**効果**（高齢化課題解決の最大のポイント）～

「生涯現役社会の実現」

⇒個人のセカンドライフの問題と地域・社会の課題を同時に解決！

個人

健康・予防

生きがい

つながり

居場所

収入

社会

生産者

消費者

納税者

医療・福祉財政

地域力

孤立防止

社会の支えあいバランス

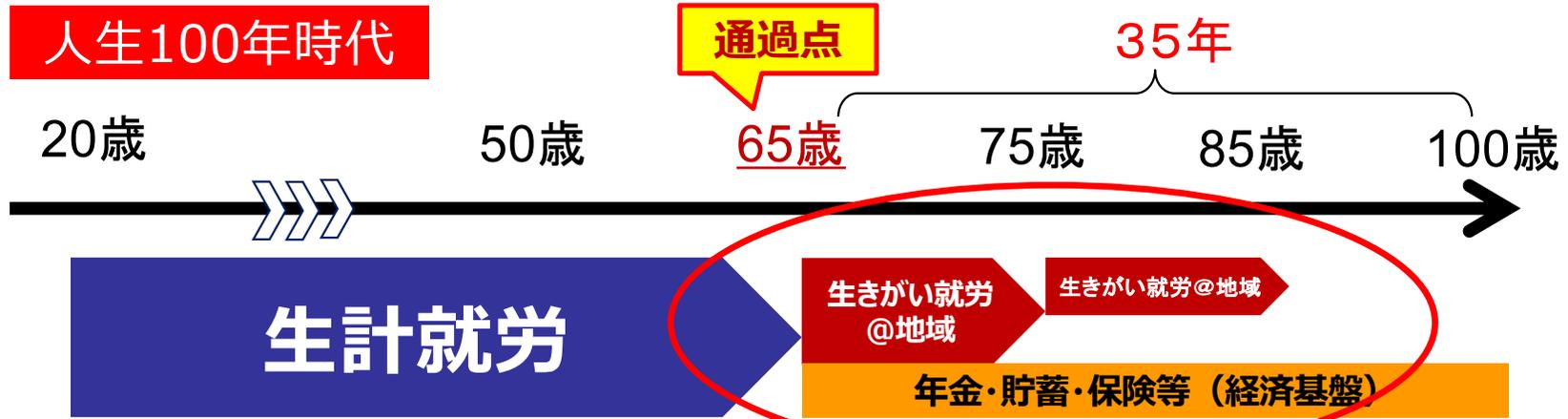


～生涯現役社会（高齢期の就労）の意義～

世界から見る日本の未来？



【パターンC】「生計→生きがい就労モデル」のイメージと効果



地域で普通のシニアが活躍し続ける！（特に地域課題解決に）

社会（地域）

地域力の強化、地域経済活性化、地域財政の好転

企業

人手不足解消、シニアを活かした新たな経営の実現

個人

フレイル・認知症予防、健康長寿・資産寿命延伸



生涯現役社会の実現（パターンCの生き方の実現）

の鍵を握るのが、

生涯現役地域づくり環境整備事業



I. 生涯現役社会の必要性

- ① 超高齢未来の課題（個人・社会・地域）**
- ② 高齢期に活躍することの効果**

II. 本事業の意義と期待

- ① 現状の考察・問題点**
- ② 理想の事業展開・プラットフォーム機能（私案）**

III. まとめ

生涯現役社会づくりに向けた近年の政策経緯

【2013年】

厚生労働省「生涯現役社会の実現に向けた
就労のあり方に関する検討会」

【2014-15年】

厚生労働省「地域人づくり事業」

厚生労働省「生涯現役社会の実現に向けた
雇用・就業環境の整備に関する検討会」

生涯現役社会づくりに向けた検討視点

- i) 企業における高年齢者の雇用の促進
- ii) 職業生活設計と能力開発の支援
- iii) 中高年齢者の再就職の支援
- iv) **地域における多様な雇用・就業機会の確保**
- v) シルバー人材センターの機能強化

【2016-21年】

厚生労働省「生涯現役促進地域連携事業」

- ✓ **地域（基礎自治体）に高齢者の就労・活躍機会の拡充をはかる機能を実装すること**
 - **高齢者の力を地域課題の解決に活かすこと**



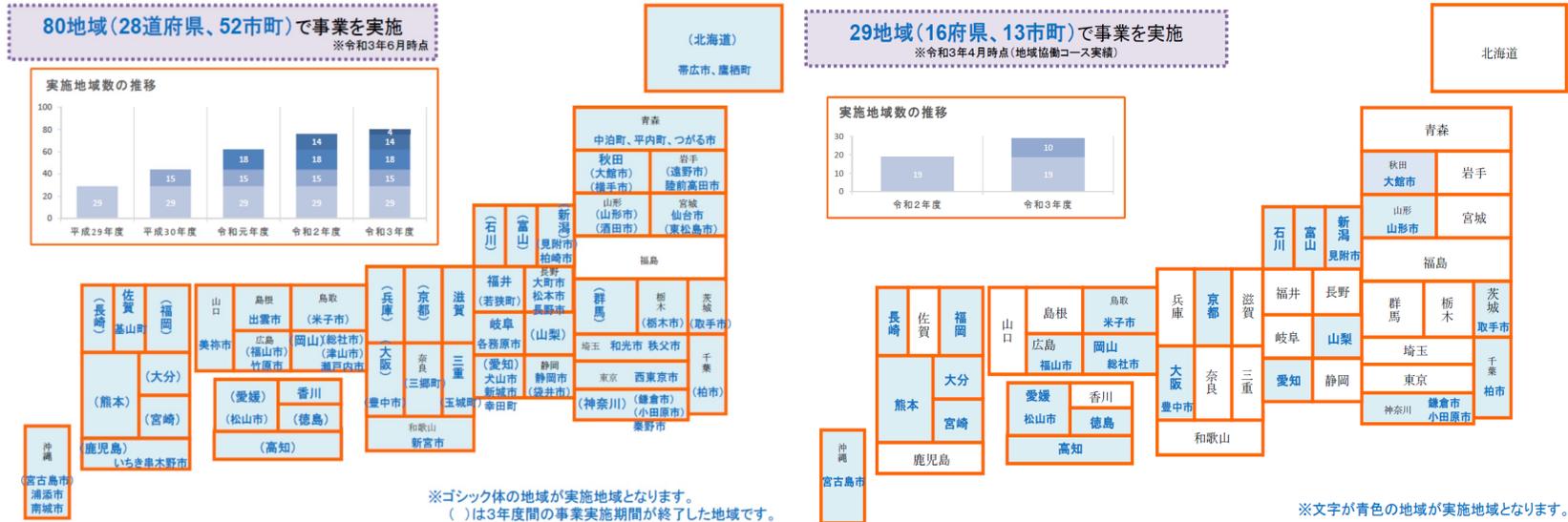
【2022年～】

厚生労働省「生涯現役地域づくり環境整備事業」

<参考> 生涯現役促進地域連携事業の実施状況（2022年3月時点：最終）

第1ステップ【連携推進コース】（1-3年）

第2ステップ【地域協働コース】（4-6年）



(2022年3月時点)

	現在実施中		終了 4年目進まず	終了含み	実施率
	連携推進 1-3年目	地域協働 4-6年目			
都道府県	7	16	5	28	59.6%
市区町村	28	13	10	52	3.0%
計	35	29	15	80	

生涯現役地域づくり環境整備事業の展開（2022年度～）

2 事業の概要

（1）多様な雇用・就業機会の創出、持続可能なモデルづくり等（生涯現役地域づくり環境整備事業）【委託事業】

・ 地域福祉や地方創生等において形成された地域づくりの既存プラットフォーム機能に高齢者等への就労支援の機能を付加する仕組みの実証等を通じて、地域の産業・人口構造によって異なる高齢期の就業ニーズをきめ細やかに捉えた多様な雇用・就業機会を創出し、地域の関係機関のネットワークにより高齢者の活躍が地域課題の解決につながる好循環を生み出す取組を展開するとともに、試行的に民間等からの資金調達に取り組むことにより、事業終了後も各地域における取組が持続可能なモデルづくりを行う。

● それぞれの協議会では以下の事業内容を共通して実施し、地域の実情や高齢者等の多様なニーズに応じ、創意工夫を活かした独自性のある取組を推進することが期待される。

協議会における事業内容

1. 多様な雇用・就業の促進

● 地域の既存プラットフォーム機能の基盤の上に、高齢者等への雇用・就業支援の機能を強化するという枠組みを試行し、効果的な事業モデルを構築する

【想定される事業の例】

- 地域の多様な関係者相互のネットワークの構築
- 事業主や高齢者等への支援
- 高齢者等のニーズと地域の雇用・就業の機会とのマッチング支援 等

2. 民間等からの資金調達

● 事業終了後も各地域における取組を持続させるため、試行的に、民間等からの資金調達に取り組む

【想定される民間資金等の調達例】

- 企業等から協議会への寄附
- 協賛企業や取組に賛同する個人等からの会費
- 企業等からの人材（マッチング支援など）の出自
- 協議会活動の一環として実施する事業活動から得た収益（地域食堂の売上金など）
- 自治体事業の支出見直しにより生じた財源の充当
- 地方公共団体あての寄附金（ふるさと納税・企業版ふるさと納税など） 等

3. 事業プロセスの評価

● 事業内容の深化や取組の拡張など、事業を実施する中で生じる質的目標の項目の変化に関する情報や資料を提供する

※ 厚生労働省が別途実施する生涯現役地域づくり普及促進事業（委託事業）に、各協議会が協力する中で実施するもの

【質的目標の項目】

- 高齢者等の多様な雇用・就業促進の取組
- プラットフォームの拡張・深化
- 民間資金調達等の取組
- 事業終了後の体制整備

自治体事業等の取組（一例）

- 重層的支援体制整備事業
- 地方創生（生涯活躍のまち事業）
- 農村型地域運営組織形成推進事業・農山漁村振興交付金事業
- 自治体の独自予算事業
- 民間主体が中心に実施される事業（例：協同労働） 等

ADD ON 就労支援機能

既存協議会等の取組

地域社会・経済の持続

高齢者等の多様な就労ニーズ

- 雇用
- シルバー人材センター等の就業（臨・短・軽）
- 社会貢献事業（有償）への従事
- ボランティア（無償）
- 起業 等

効果的な
持続可能な
事業モデル
の創出

資料：厚生労働省作成資料より抜粋

<参考>「高齡社会対策大綱」(2024.9.13閣議決定)における政策方向

『高齡社会
対策大綱』
(2024.9.13
閣議決定)

第2 分野別の基本的施策

3 学習・社会参加

**(3) 地域における社会
参加活動の推進**

① 多世代による社会参加活動の促進

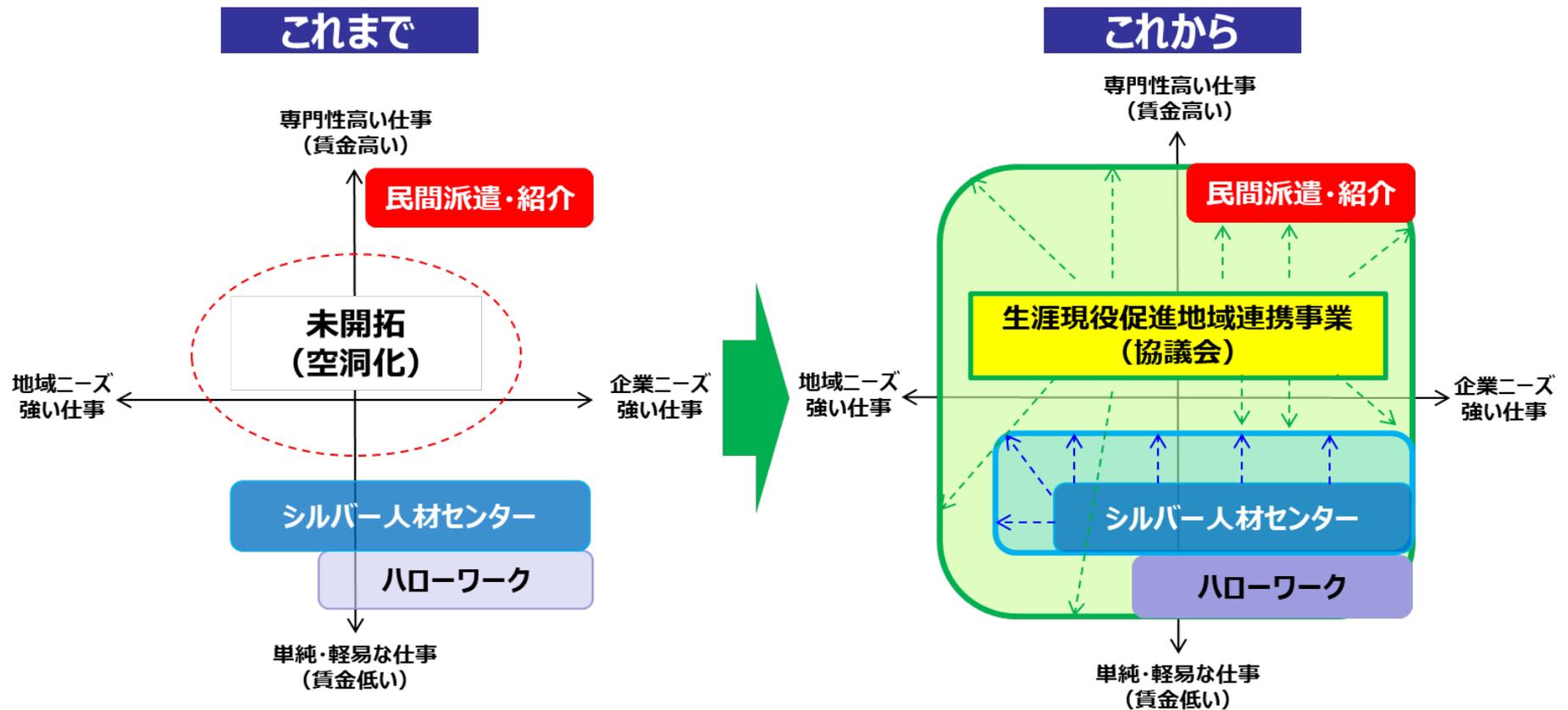
高齡期における体力的な若返りや長寿化を踏まえ、長くなった人生を豊かに過ごすことができるよう、高齡期においても社会や他者との積極的な関わりを持ち続けられるようにすることが重要である。仕事の中でしか社会とのつながりがない場合には、定年退職とともに望まない孤独や社会的孤立に陥る場合もあり、高齡期を見据えて、高齡期に入る前から地域とのつながりや居場所を持つ機会を増やす取組も求められる。

また、地域社会の観点から見ても、地域を支える人材の高齡化や人手不足が進み、高齡世代から若年世代への役割の継承も課題となっている中で、地域でのつながりや支え合いを促進し、地域社会を将来にわたって持続可能なものとしていくためには、地域の社会課題に関する学びの機会の確保や担い手の育成を図ることが必要である。

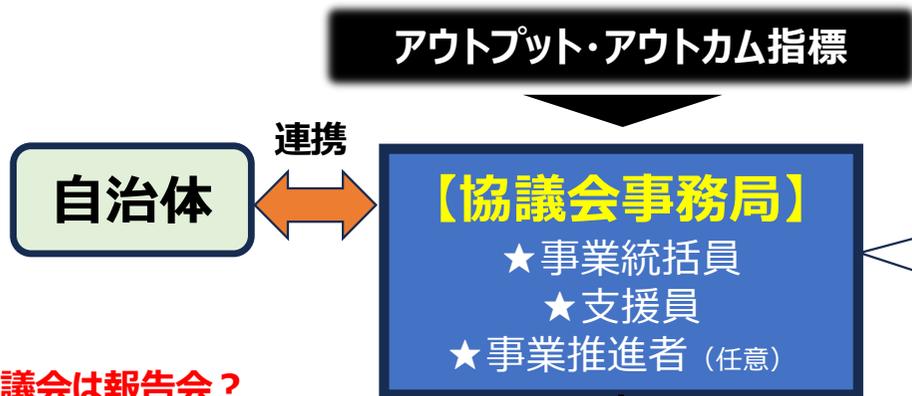
こうした観点から、多様で複合化した社会課題に対応していくため、幅広い世代の参画の下、**地方公共団体、大学等、企業・団体、NPO、地域住民等の多様な主体の連携により、地域社会の課題解決に取り組むためのプラットフォームの構築や活用の促進を図る。**その一環として、幅広い世代から地域社会の担い手を確保するため、地域の仕事や社会活動、学習機会等の情報を一元的に把握でき、それぞれの働き方のニーズや状況に応じて個々の業務・作業等を分担して行うモザイク型のジョブマッチングを含め、多様な活躍の機会が提供される仕組みの構築を図る。こうした仕組みの構築に当たっては、**施策分野の壁を越えて分野横断的な活動を行うための中間支援組織の育成・支援を図るとともに、住民の生活圏・経済圏の状況等を踏まえつつ、行政区域を超えた広域的な連携が効果的に行われるよう留意する。**

厚生労働省「生涯現役促進地域連携事業」の意義（当時の概念図）

地域（自治体及び関係機関）が一丸となって、
高齢者の力を地域課題の解決に活かす活動を展開（＝活躍の場を拡げる）



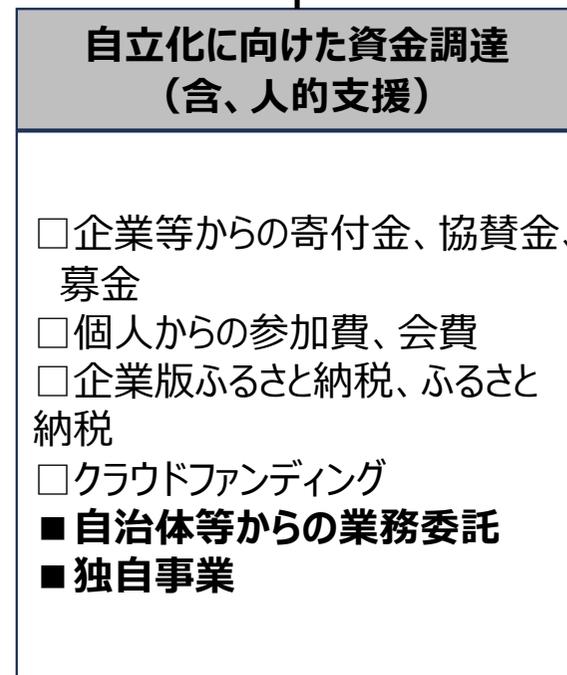
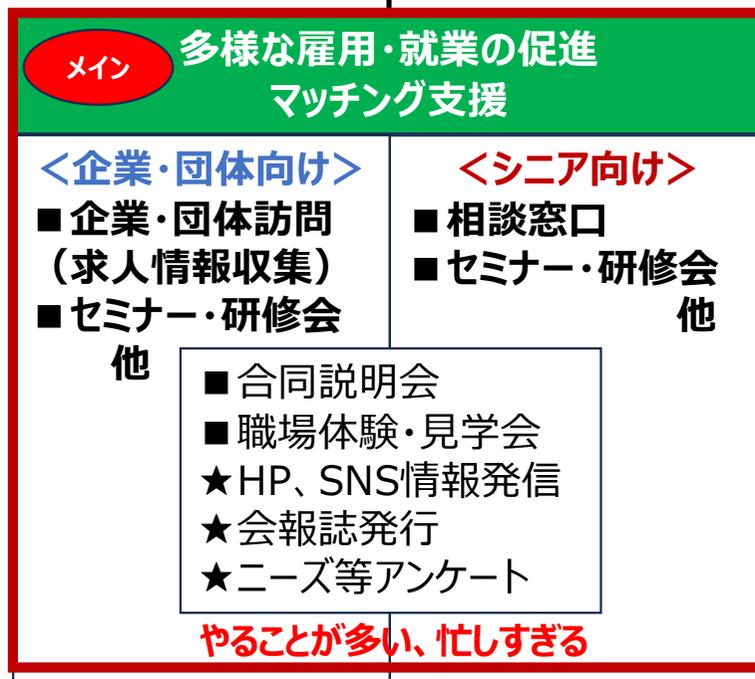
協議会（事務局）の現状に対する考察①



- ✓ 協議会事務局が**孤軍奮闘**状態に
- ✓ **指標達成**のプレッシャー（この達成が第一目的化。事業目的の矮小化に）
- ✓ 様々な「戸惑い」の増加・・・

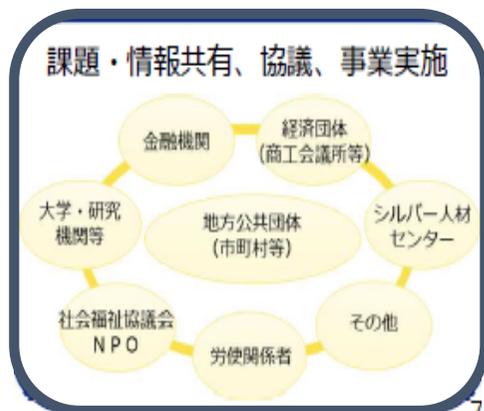
自治体以外はお客様？ 協議会は報告会？

簡単ではない、見通しが立たない・・・



協議会（事務局）の現状に対する考察②

【協議会の構成等】



（活動面での戸惑い）

■ シニアのマッチングは難しい、簡単ではない！

【企業側】 シニアよりも、若者、女性、外国人

【シニア側】 選り好み、敬遠しがち（一歩踏み出さない）

（組織的運営面での戸惑い）

■ 協議会としての機能化、構成団体との協働を進められない

【事務局側】 そこまで余裕がない

【構成団体側】 協力の姿勢はあるが、メリットも必要

※協議会とは・・・様々なあるいは同様な立場の人々や、又は団体が集まって 議題について、参加者が実現化に向けた議論をし、実現に結びつけることを協議といい、そういった会を協議会という（Wikipedia）

※プラットフォームとは・・・サービスやシステム、ソフトウェアを動かすために必要な基盤や土台となる環境を指します。何を起点にするかによって、プラットフォームとなる対象は異なり、業種やジャンルによって異なります（AI回答）

■ 事業化（資金調達）は極めて難しい

【事務局側】 経験・ノウハウがない。人・お金を集めるのは容易でない。相応の時間・労力がかかること

理想の協議会（事務局）運営とは？（総論）

【目的】 **地域力（地域資源）の最大化**を推進するプラットフォーム化
→事務局（数名）の力だけではなく、**協議会の総力を高める方策**の必要性

【理想の協議会の位置づけとは】

高齢期の新たな就労・活躍の場に導く「**地域の公的なプラットフォーム**」

※介護、認知症、福祉の悩みは「**地域包括支援センター**」

→**セカンドライフ・キャリア**を考える時には「**当協議会**」へとなるように！

（仮称：ライフデザイン支援センター、地域人材養成センター等）

【協議会事務局は】

やみくも、活動量重視 → **効果的・効率的に（負荷軽減化）**

単体独自の個別アプローチ → **コーディネーター、プロデューサー的活動**を

（協議会構成組織との協働事業の創出やB to B（雇用者団体等）を基本に）

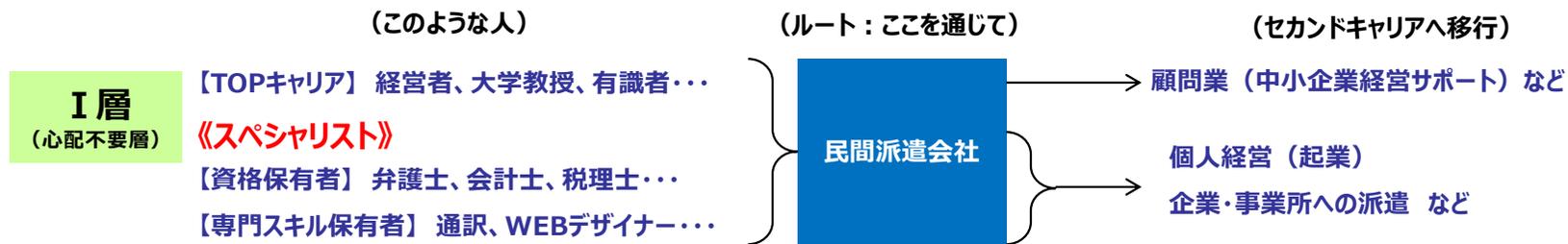
【検討1】

シニアのマッチングはなぜ難しいのか？

→シニアは多様、ニーズも多様だから
両者（シニア・企業等）が有する偏見も弊害

■ セカンドライフ空洞化問題の中心は「Ⅱ層シニア問題」

(Ⅱ層：普通のシニア、定年のある会社員・公務員)



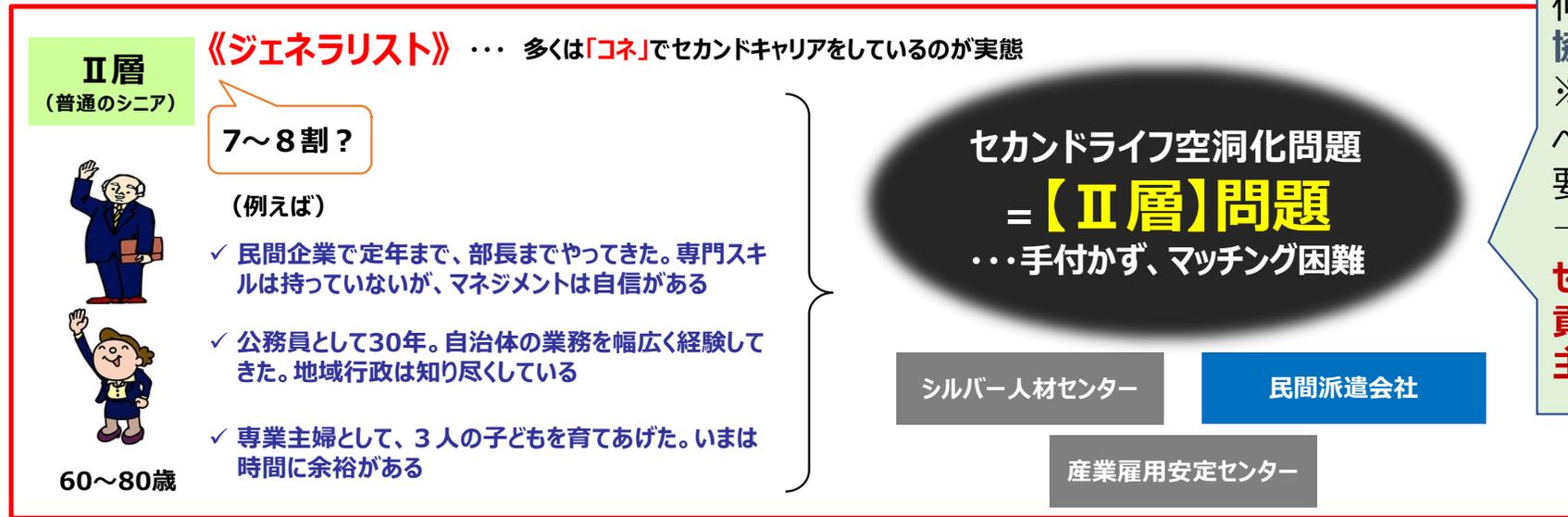
(ペルソナ・イメージ)

元気、マイホームあり、年金はそこそこあり、生活は比較的安定 (将来不安、資産枯渇は抱えている)

何かしたい、「求められたら協力してもよい」スタンス

※仕事・条件の中身、モチベーション、エンゲージメント要素が重要

→ **楽しみがある、経験活かせる、仲間とできる、社会貢献になる、感謝される、主体的に動ける、…**



■「Ⅱ層シニア」のミスマッチ問題

職種（職業）分類コード表
(職業分類用 日本標準職業分類 平成21年12月改定版)

職業・職種（小分類）= 328

「日本標準職業分類」
(平成21年12月統計基準設定)

<大分類>

- A- 管理的職業従事者
- B- 専門的・技術的職業従事者
- C- 事務従事者
- D- 販売従事者
- E- サービス職業従事者
- F- 保安職業従事者
- G- 農林漁業従事者
- H- 生産工程従事者
- I- 輸送・機械運転従事者
- J- 建設・採掘従事者
- K- 運搬・清掃・包装等従事者
- L- 分類不能の職業

<求人によく見かける内容>

軽作業、補助業務、清掃、居住施設管理、送迎、保安・・・



ミスマッチ

<Ⅱ層シニアが望む条件>

- ① 自分が役立つ、感謝される仕事
- ② 楽しみがある仕事
- ③ マイペースで無理なく働ける仕事
- ④ 適度な責任の中で働ける仕事
(過度に責任の重い仕事は望まない)
- ⑤ 主体的に創造・工夫等ができる仕事
(単純労働、こなすだけの仕事は好まない)

開拓・拡大が望まれる仕事 (公共性・地域性の高い仕事)

公共サービス、介護・福祉、子育て・教育・・・

<参考> 階層別【Ⅰ～Ⅲ層】全国3000名シニア調査（2024.2）

1. 対象：65～74歳 男女 全国 3000名（WEB調査モニター）

2. 調査目的：**Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層シニアの実態把握**

- 65歳以降就業者：どういう価値判断、条件等で働いているのか？
- **65歳以降非就業者：どういう仕事・活動等を求めているのか？** など

約1万人を対象としたスクリーニングから対象者を抽出

区分	属性的要件	経済的要件（65歳時点）
Ⅰ層シニア （支援不要層）	<ul style="list-style-type: none"> ■（現在）自営業・経営者 または ■（元）企業・団体の会長及び社長（それに準じる組織の長） △ 資格や専門スキルを活かして独立・就職が比較的容易と思われる層 ※あくまで定性的要素 △ 企業・団体の役員（副社長～取締役） ※企業規模や経済的要因によりⅠ・Ⅱ層が異なる 	貯蓄 2000万円 以上（約2割）
Ⅱ層シニア （中間層）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 定年によりリタイアした元会社員・公務員・団体職員 	※Ⅰ・Ⅲ層以外（約6割）
Ⅲ層シニア （就労必要層）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無就業者、扶養対象者 ■ 定年によりリタイアした元会社員・公務員・団体職員 	貯蓄 100万円 未満（約2割） かつ 世帯年金額 月15万円 以下 ※生活保護水準：世帯収入13万円以下/月

666名
(22.2%)

1500名
(50.0%)

834名
(27.8%)

資料：公益財団法人長寿科学振興財団 令和4年度長寿科学研究者支援事業「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」
「貢献寿命延伸への挑戦！～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～」プロジェクトにおける調査より（担当：前田）

■ 就労と地域活動の実施状況（65～74歳、全国3000名）

		両方している		仕事だけしている		地域活動だけしている		いずれもしていない		(%)
		仕事○		仕事×		仕事×		その他		
		(人)	地域活動○	地域活動×	地域活動○	地域活動×	地域活動○	地域活動×	地域活動○	地域活動×
合計		3000	10.6	23.6	17.4	47.5	0.3	0.7		
男性		1644	12.8	28.9	11.9	45.7	0.2	0.5		
女性		1356	7.9	17.1	24.2	49.7	0.3	0.8		
I層	男性	408	16.7	23.3	18.1	41.2	0.5	0.2		
	女性	258	12.4	17.8	29.5	39.5	0.4	0.4		
II層	男性	780	13.2	29.1	11.9	44.9	0.3	0.6		
	女性	720	7.6	14.0	26.1	51.1	0.4	0.7		
III層	男性	456	8.6	33.6	6.1	51.1	0.0	0.7		
	女性	378	5.3	22.5	16.9	54.0	0.0	1.3		

公益財団法人長寿科学振興財団 令和4年度長寿科学研究者支援事業「長生きを喜べる長寿社会実現研究支援」
「貢献寿命延伸への挑戦！～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～」プロジェクト

(略称：貢献寿命&GBERプロジェクト)

【タスク2】シニア向け就労・貢献活動の選択肢の体系化とモザイク化
2023年度追加調査「セカンドライフに関するアンケート」調査

資料：左記調査より（筆者担当）

◆ 現在、働いている人の実態

■ 現在の就業形態と就業に至る経緯（ルート）

■ 就業形態

	合計	経営者	自営業	家業	起業	もともとフリーランス	退職後フリーランス	再雇用・継続雇用	新たな職場
合計	1024	5.1%	1.8%	1.3%	1.8%	0.7%	5.6%	27.1%	47.4%
I層	241	15.4%	2.9%	1.7%	3.7%	0.8%	11.6%	29.9%	32.8%
II層	486	2.1%	0.8%	1.6%	0.8%	0.8%	3.7%	28.2%	49.6%
III層	297	1.7%	2.4%	0.3%	1.7%	0.3%	3.7%	22.9%	55.6%

■ 新たな職場 に至る経緯 (ルート)

	合計	家族や友人、昔の会社の同僚、知り合いからの紹介	登録した人材派遣会社からの紹介	ハローワークからの紹介	入会したシルバー人材センターからの紹介	自治体の就労相談窓口からの紹介	インターネットで調べて自分でアプローチした	その他、求人情報を見て自分でアプローチした	上記以外
合計	485	23.7%	3.9%	26.2%	3.7%	1.2%	13.4%	19.8%	8.0%
I層	79	36.7%	6.3%	20.3%	6.3%	1.3%	11.4%	8.9%	8.9%
II層	241	24.9%	3.7%	25.3%	3.7%	1.2%	13.3%	19.1%	8.7%
III層	165	15.8%	3.0%	30.3%	2.4%	1.2%	14.5%	26.1%	6.7%

◆現在、働いている人の実態

■就業目的、何歳まで働きたいか

■就業目的

	合計	働かなければ ならない	少しでも収入を 得られた方がよ い	健康のためにな る	人や社会とつ ながり/いきが い	自分の居場所	時間を持て余し ている	特に理由なし
合計	1024	33.8%	37.5%	46.3%	46.4%	23.0%	13.8%	4.7%
I層	241	12.4%	43.6%	50.2%	63.9%	35.3%	17.0%	4.1%
II層	486	30.5%	42.6%	50.2%	49.4%	21.8%	12.1%	3.9%
III層	297	56.6%	24.2%	36.7%	27.3%	15.2%	13.8%	6.4%

■何歳まで働きたいか

	合計	働けるうちはい つまでも	85歳くらいまで	80歳くらいまで	75歳くらいまで	70歳くらいまで	できればすぐに でも辞めたい (働きたくない)
合計	1024	38.3%	0.8%	8.0%	25.4%	22.0%	5.6%
I層	241	32.8%	1.2%	7.9%	29.5%	24.9%	3.7%
II層	486	36.2%	0.6%	8.4%	26.3%	22.8%	5.6%
III層	297	46.1%	0.7%	7.4%	20.5%	18.2%	7.1%

◆現在、働いていない人の実態

■今後の就業意向

現在働いていない人の場合、経済的に働く必要がない・仕事以外のことをしたい、健康等のため働くことができない65%を占める。これから新たな就労が期待できるのは3割程度の状況。

■これから「働くこと」についてどのように考えているか（SA）

	合計	経済的な理由から何としても働きたい	自分にできそうなこと、条件にあうものがある、また働いてみようかと思っている	面白そうなおこと、やりがいがありそうなことから、また働いてみてもいいかなと思っている	働きたくても、健康等の問題から働くことができない	経済的に働く必要がない	仕事以外のこと（ボランティア等）に時間を費やしたい、働くつもりはない	その他
合計	1948	2.3%	15.0%	14.4%	16.2%	31.9%	17.4%	2.8%
I層	420	0.0%	8.6%	14.8%	6.4%	48.1%	20.5%	1.7%
II層	999	1.4%	15.4%	15.3%	16.4%	31.2%	17.3%	2.9%
III層	529	5.9%	19.3%	12.5%	23.4%	20.4%	15.1%	3.4%
男性	946	3.0%	14.3%	17.8%	16.6%	32.0%	14.2%	2.1%
女性	1002	1.7%	15.6%	11.3%	15.8%	31.8%	20.5%	3.4%
I層/男性	242	0.0%	9.9%	18.2%	5.0%	50.0%	15.3%	1.7%
I層/女性	178	0.0%	6.7%	10.1%	8.4%	45.5%	27.5%	1.7%
II層/男性	443	2.2%	16.0%	20.3%	17.8%	26.7%	14.6%	2.3%
II層/女性	556	0.7%	14.9%	11.4%	15.3%	34.9%	19.5%	3.4%
III層/男性	261	6.9%	15.7%	13.0%	25.3%	24.5%	12.3%	2.3%
III層/女性	268	4.8%	22.8%	11.9%	21.7%	16.4%	17.9%	4.5%

◆現在、働いていない人の実態

■仕事（業種）別の就労意欲 ※「就業希望あり」の人のみの回答

	合計	介護・福祉	子育て	学校関係	自治体関係	接客	補助・軽作業	保安	マンション管理人	清掃	運転	農作業	どれもなし
合計	618	8.6%	6.8%	12.8%	35.0%	11.2%	42.6%	5.5%	16.2%	12.6%	11.0%	10.5%	23.0%
I層	98	10.2%	9.2%	19.4%	51.0%	8.2%	37.8%	5.1%	16.3%	9.2%	8.2%	10.2%	24.5%
II層	321	8.1%	6.5%	12.8%	35.2%	10.6%	44.2%	5.9%	14.3%	10.0%	12.8%	11.2%	23.1%
III層	199	8.5%	6.0%	9.5%	26.6%	13.6%	42.2%	5.0%	19.1%	18.6%	9.5%	9.5%	22.1%
男性	332	6.9%	4.8%	12.7%	39.8%	5.4%	38.3%	9.9%	19.9%	10.5%	19.3%	12.3%	24.4%
女性	286	10.5%	9.1%	12.9%	29.4%	17.8%	47.6%	0.3%	11.9%	15.0%	1.4%	8.4%	21.3%
I層/男性	68	10.3%	7.4%	16.2%	54.4%	2.9%	32.4%	7.4%	16.2%	7.4%	11.8%	8.8%	30.9%
I層/女性	30	10.0%	13.3%	26.7%	43.3%	20.0%	50.0%	0.0%	16.7%	13.3%	0.0%	13.3%	10.0%
II層/男性	171	6.4%	5.3%	14.0%	40.4%	5.8%	43.9%	11.1%	18.7%	9.9%	22.8%	14.6%	21.6%
II層/女性	150	10.0%	8.0%	11.3%	29.3%	16.0%	44.7%	0.0%	9.3%	10.0%	1.3%	7.3%	24.7%
III層/男性	93	5.4%	2.2%	7.5%	28.0%	6.5%	32.3%	9.7%	24.7%	14.0%	18.3%	10.8%	24.7%
III層/女性	106	11.3%	9.4%	11.3%	25.5%	19.8%	50.9%	0.9%	14.2%	22.6%	1.9%	8.5%	19.8%

◆現在、働いていない人の実態

■どうすればよりスムーズに働けるようになるか ※「就業希望あり」の人のみの回答

この回答からは、「シニア向きの仕事とは何か（どのような仕事があるのか）」、そして「自分に向いている仕事は何か」、この情報を可視化して伝えることが、シニア就労拡大に必要な要素と再認される。

■どうすれば新たな仕事によりスムーズに就くことができそうですか。「そう思う」と思えるものを全て選んでください（MA）

	合計	友人・知人からの誘い	自分に向いている仕事を知れる	シニア向きの仕事の中身をよく知れる	職場の状況をよく知れる	地域からの積極的な情報提供	地域での参加機会の提供
合計	618	28.3%	43.0%	64.2%	29.8%	24.1%	17.6%
I層	98	34.7%	49.0%	58.2%	30.6%	28.6%	18.4%
II層	321	29.3%	43.6%	61.4%	32.7%	23.7%	17.8%
III層	199	23.6%	39.2%	71.9%	24.6%	22.6%	17.1%
男性	332	28.0%	44.0%	63.6%	31.6%	24.7%	15.7%
女性	286	28.7%	42.0%	65.0%	27.6%	23.4%	19.9%
I層／男性	68	33.8%	47.1%	61.8%	33.8%	26.5%	16.2%
I層／女性	30	36.7%	53.3%	50.0%	23.3%	33.3%	23.3%
II層／男性	171	29.8%	45.0%	61.4%	33.3%	24.0%	17.0%
II層／女性	150	28.7%	42.0%	61.3%	32.0%	23.3%	18.7%
III層／男性	93	20.4%	39.8%	68.8%	26.9%	24.7%	12.9%
III層／女性	106	26.4%	38.7%	74.5%	22.6%	20.8%	20.8%

＜参考＞シニアの活躍が期待される仕事内容（特定分野のみ）

■ 高齢者が活躍（貢献）できる選択肢の拡大に向けて

私どもでは高齢者の意識やニーズを踏まえると、特に地域（社会）に貢献できる次の分野（※）で、高齢者が活躍（貢献）できる仕事等がないかを模索しています。それぞれの分野の中でこれまでの経験等から、高齢者に委ねられる（業務を切り出せる）、具体的な業務・タスクについて、何か思い当たることがあればその具体内容を教えてください（自由記入。分野は1つだけでも構いません。特に思い当たらなければ、空欄でも結構でございます）

＜※開拓を拡げたい分野＞ ①**公共サービス** ②**学校** ③**子育て** ④**福祉** ⑤**地場産業** ⑥**その他**

（回答例）①自治体を実施するイベントの受付業務 ②小学校の放課後授業 ③保育園で朝の子どもへの向かい入れ時の対応 ④福祉施設の食事の準備と配膳 ⑤農業の収穫時のみのサポート など

※回答をそのまま記載（内容の重複あり）

①**公共サービス分野**

- 自治体での会計年度任用職員で就労
- 自治体の事業/イベントなどに率先して高齢者雇用
- 公共施設の受付業務（公民館、美術館、スポーツ施設、公共浴場など）
- 自治体を実施するイベントの受付業務
- マラソン大会（自治体主催）での受付、エイドステーション係など
- 会計年度任用職員
- フレイル予防ポイントカードの発行業務
- 自治体や地方公共団体等の窓口・一般事務
- 美術館や観客施設、自治体イベントなどにおける受付、案内、整理等の業務

② 学校関係

- 学校の業務員
- 子供を護るための見回りなどに、高齢者の雇用促進(有償ボランティア)
- 保育園、小学校でのイベント準備（運動会、文化祭など）
- 放課後児童クラブ終了時間後の預かり
- 小学校での本の読み聞かせ、タブレット使用時の補助
- 登下校の見守り、部活動指導、本の読み聞かせボランティア、校庭草むしり、落ち葉はき、授業補助（英語・PC）、放課後の学習支援
- 学習指導員、放課後児童支援員
- 教育の事務補助（プリント作成・印刷、消毒、清掃等の雑多な仕事）

③ 子育て分野

- 学童保育の支援業務
- こどもクラブ(学童保育)などへ積極的に高齢者を導入
- 病後児保育
- 保育業務における、登園時間の補助業務。保育園での保育補助。
- 放課後等デイサービスでの子供の見守りや学習支援、送迎
- 子どもの見守り（市が行っている「こどもひろば」という事業で子どもの安全を見守る業務）
- 給食時の見守り（保育園）、食べこぼしの掃除、おもちゃの消毒、昼寝の見守り、保育園駐車場案内（朝夕）
- 学童保育でのピアノの先生、理科の先生
- 保育園・幼稚園の児童の送迎バス運転手
- 幼児・児童の預り、学童保育のサポート
- 学童保育の補助員
- 子ども食堂のスタッフ（調理、お弁当作りなど）。学童クラブでの保育補助（児童の学校までの迎え、学習の見守り、おやつ準備、食器洗い、整理整頓等）
- 保育園、放課後児童クラブでのおやつ（食事）作り。放課後児童クラブや学校でレクとして、かるた、将棋、生け花などを教える

④福祉分野

- 送迎ドライバー、生活支援、福祉有償ドライバー
- 年齢が近い人の福祉の仕事は難しいものがあるが、障がい者の方への仕事とかに範囲拡大。資格が不要な仕事(洗濯、配膳、掃除、イベント)などの切出し。
- 福祉施設の利用者送迎、訪問介護の家事援助、利用者の話し相手、請求書作成業務
- 福祉施設での食事補助、移動補助、軽運動のサポート、家事援助
- 調理補助、配膳、食器洗い、清掃、送迎
- 施設環境整備（草刈り・清掃等）、送迎業務、宿直業務など
- 福祉施設の食事の準備・配膳及び清掃
- 福祉分野 ア) 障がい者就労支援事業所における就労移行の支援員業務 ※福祉分野は企業との接点も弱いため、ビジネス経験（マナー・エチケット・思考・行動・理論等）を積み重ねスキルを磨いたシニア層の人材が必要だと考える。ビジネスの職種を熟知しているシニアに業務の切り出しや求人情報開拓を担当させたらどうか。できれば、営業経験がありB to B(ビジネスtoビジネス)経験者が好ましいと考える。

イ) 介護保険施設における高齢利用者の話し相手

- 病院での調理や庭の手入れ
- ベッドメイキング、配膳、移送など簡単な補助業務
- 介護施設での清掃、ゴミ出し、物品補充、調理補助、お話し相手、経理補助、事務補助等
- 介護補助、介護施設宿直、デイサービス送迎バス運転手
- 福祉介護施設における調理補助や送迎などの補助業務。障害者児童に対する資格を活かした援助活動。児童の通学時での交通整理、安全対応。
- 介護施設での調理補助、清掃等、無資格で可能な業務。利用者の話し相手等。
- 介護施設、デイサービス等での介護補助（利用者の見守り、レクリエーションの準備、配下膳、洗濯、部屋の片づけ、入浴準備、建物の営繕、守衛など
- 施設の管理・運営
- 福祉施設における厨房業務、送迎ドライバー、清掃、入浴介助

⑤ 地場産業

- 援農ボランティアによるサポート
- 野菜直売所の手伝い（品出し、レジなど）
- 農作業の収穫時など期間限定作業
- 工場内の整理整頓、ごみ分別作業、配送、包装、安全パトロール
- 農業の収穫時のサポート
- 野菜の収穫、選別、加工など
- 製造業：経験のある生産関連の作業、製造過程の軽作業等、清掃業務、製造補助業務等
卸・小売業：梱包作業、フォークリフトの倉庫内作業等
農業：草刈り作業に係る業務、作物栽培管理の補助的な仕事
- 旅館ホテルでの清掃、観光農園でのブドウ栽培補助、観光レジャー農園・体験農園での指導（小中学校生向け）、観光ボランティア
- 農業分野 ア) ハウス栽培における朝取り野菜(キュウリ)の収穫 → 5:00～7:00
- 農業の収穫時のサポート
- 複数人での農業の分業、漁業（カキの水揚げ）での補助業務

- 農作物生産、共選所作業、観光案内
- 観光ガイド・ボランティア
- 地域の高齢者が地域住民へ有償で食事提供（店舗運営）

⑥ その他

- 経験を活かした起業(個人事業主、セミ講師など)
- 車販売会社の洗車、宿泊施設の備品補充、分譲マンションの管理員（清掃、巡回、受付）
- スーパー、ドラッグストアの朝の解錠、カート整理、開店準備
- ホテルの朝食対応（子育て世帯が働けない時間帯の勤務）、時間に融通の利く、タクシー乗務員、スーパーでの商品の品出し、値付け、惣菜づくり。宅配サービス（福祉）お弁当の盛り付け作業、配達
- スーパー等での朝の開店準備、買い物かごやカートの整理・自動車ディーラー等での車の洗車、駐車場内での車の移動・オフィスビル等での日常清掃・パソコンを活用したデータ入力作業
- NTTのOBによる小学校ITボランティア
- 派遣会社 ア) キャリア/経験豊富なシニア人材を活用したマッチング業務・求人情報開拓業務。できれば人事採用担当経験者。
- 清掃、食品製造、調理補助、警備

高齢者就労・生涯現役社会づくりに向けた課題～Ⅱ層シニアを中心に

<課題>	<現状>	<打開に向けた取組視点> → 環境整備事業
文化・価値観の問題（政策含め）	個人・企業・社会ともに人生100年（生涯現役）時代の価値観の共有不足	【発想の転換（パラダイムシフト）】 人生100年時代の 高齢者地域就労 における 新しい価値観（健康、生きがい、社会貢献）の提案と定着 に向けた取組みの推進
高齢者の仕事がない	業務の切り出し（企業に聞いただけ）	【仕事（選択肢）の開拓・創造】 社会にとって有益でシニアにとっても魅力的な、 シニアに相応しい仕事の新たな開拓・創出 （自治体関係業務、子育て、生活支援、介護、農業、観光等）
普通の高齢者のマッチングシステムがない	シルバーは限定的生涯現役地域づくり環境整備事業の成果が待たれる状況	【マッチングシステム・イノベーション】 当該マッチング機能を有した 持続可能な事業モデルの創造 ※ G to B to B to Cモデルの創造

【検討2】

有機的な協働、求められる事業運営は？

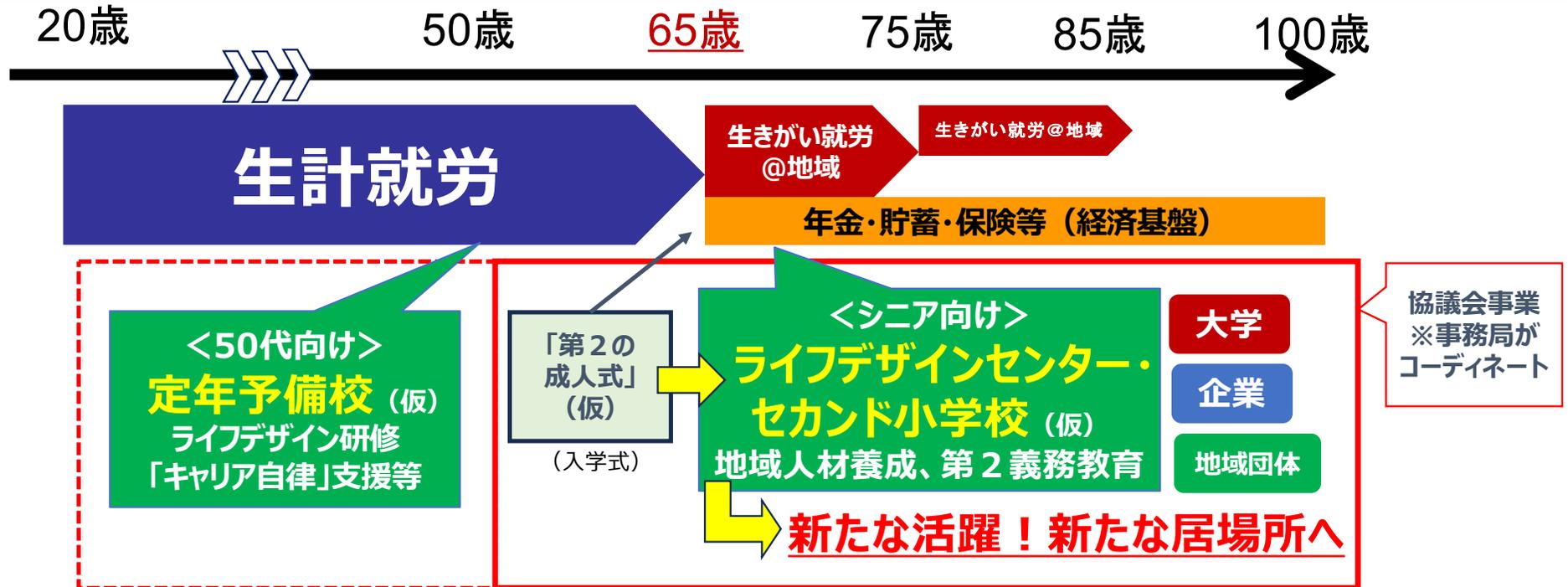
★事業全体での「流れ」を創る！

★全体で協働できる事業モデルを創造する！

★一つの事業モデル案（全体イメージ）★

【課題】 多様なニーズ⇒自分にあった場・活動を見つけづらい
 何かはしたいが、一歩が踏み出せない
 両者（シニア・企業等）が有する偏見、歩み寄れる接点が少ない

「学び」（知る）→「仲間」（つながり）→「活躍・就労」が有効！



<参考>「地域人材」としての活躍するパターン（選択肢）

<個人から見た活動パターンの選択肢>

就労

- 起業
- フリーランス
- シルバー人材センター
- 雇用** (正規・非正規)
- 協同労働

社会活動

- ボランティア**
- 地域活動**
- サークル活動
- 学習活動
- その他

- 自治会、町内会
- 老人会
- 婦人会
- 防災組織
- **市民活動団体**
- NPO 他**

- まちづくり活動
- **子育て支援**
- **社会参加支援**
- **福祉**
- 健康づくり
- 環境問題
- 地域の治安や防犯 他

主な役割等
(□は資格必要)

高齢者福祉

介護支援専門員

介護福祉士

ホームヘルパー

- 介護助手
- 地域福祉
コーディネーター

学校関連

児童指導員

■ スクールサポーター

■ ファミリー・サポート・スタッフ
(子育て支援)

- 就労的活動支援
コーディネーター
- 生活支援コーディネーター
- 民生委員・児童委員

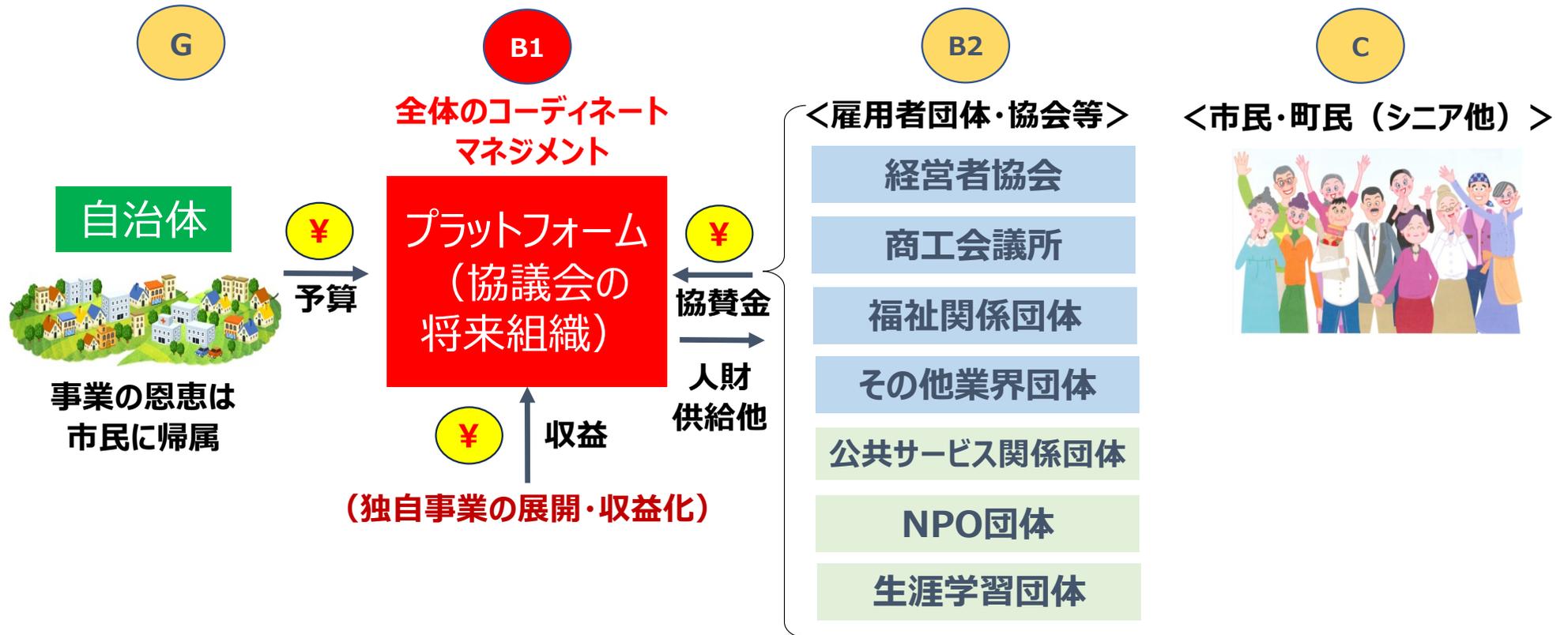
子育て支援

保育士

■ 保育補助

★一つの事業モデル案（収益構造・イメージ）★

半官半民事業 = **GBBCモデル**が理想
自治体と企業等からの**マッチングファンド**が理想



I. 生涯現役社会の必要性

- ① 超高齢未来の課題（個人・社会・地域）**
- ② 高齢期に活躍することの効果**

II. 本事業の意義と期待

- ① 現状の考察・問題点**
- ② 理想の事業展開・プラットフォーム機能（私案）**

III. まとめ

～まとめ～

- ✓ 人生100年時代、高齢者4割社会の到来により、個人・社会・地域において課題が増幅。
- ✓ その課題解決の最適解は、「**生涯現役社会**」の実現であり、そのための鍵を握るのが「**生涯現役地域づくり環境整備事業**」。
- ✓ 当事業の運営にあたっては、活動面や組織運営面で多少なり「課題」や「戸惑い」を感じられている状況が散見される。
- ✓ シニアのマッチングは簡単ではない（特に「**Ⅱ層シニア**」）。Ⅱ層シニアのニーズにあった活躍の選択肢拡大が望まれる（公共サービス分野等）。
- ✓ 協議会としての実効的な協働、持続可能な事業モデルの構築に向けては、「**全体の流れを創る**」、「**全体で協働できる事業**」を創造することも一案。
- ✓ 最終的に、皆様の取組みを通じて構築される「**〇〇モデル**」が、数年後には全国あらゆる地域で実装されていくことを切に期待！

～さいごに～

生涯現役社会の実現を通じて
安心して長生きを喜べる長寿社会の実現を！

世界から見る日本の未来？



老いる国
ジャパニフィケーション



超高齢・長寿大国
世界のモデル！



加齢（長寿）
に価値と希望
のある社会

2024年11月20日

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室 上席研究員 前田展弘

maeda@nli-research.co.jp